

令和元年度 学修行動調査レポート

令和 2 年11月

はじめに

本学は、大学の大衆化と学生の多様化が一層進む中、大学教育の質を社会に保証していくことが求められており、これに対応するために各種の施策に取り組んでいる。

大学基準協会「大学評価研究」（第13号2014年8月）において、「現状の教育課程の内容が、学生の主体的な学修を十分に促す内容となっているか、学生が卒業までに教育目標に沿った学修成果を十分に達成できているかを検証し、今後の具体的な改善方策につなげていくPDCAサイクルを確立する必要がある。そのためには、学修時間・学修行動の実態把握が必要となる」との学修行動調査の必要性が述べられている。この趣旨を踏まえ、本学では、学生の質保証や学修成果の可視化への取組に向け、学生本人が、自らの課程を通じた学修成果を把握するために、教育の学修経験を問う「学修行動調査」を院生を含む全ての学生を対象に平成30(2018)年度から実施している。

令和元(2019)年度における学修行動調査結果に対する所見では、卒業・修了認定・学位授与の方針に掲げる目標値を学生が達成しているかを把握し評価を行うとともに、その結果を踏まえ、「教育課程や教育内容・方法などの改善方策」を示すこととした。

目次

- 分析目的／調査概要 2
- 回答者プロフィール 3
- 授業中での経験 13
- 授業時間外の学習態度 20
- 本年度の週当たりの学修等時間 25
- 入学時と比べ、身に付いた学修成果・経験 32
- 学部設問項目 44
- 学修行動調査結果に対する所見 49

調査目的／調査概要

<調査目的>

本調査は、学生の主体的な学修を促す教育課程となっているか、卒業・修了時まで
教育目標に沿った成果が上がっているかなどを検証し、その結果を教育課程や授業の
改善に資することを目的に実施した。

<調査概要>

- ・ 調査方法：インターネット調査（Web調査：拓殖大ポータルからリンク）
- ・ 調査対象：拓殖大学・学生、大学院生(約1万人)
- ・ 調査期間：2019年12月16日（月）～2020年3月2日（月）
- ・ 回答者数：2028名

	商学部	政経学部	外国語学部	工学部	国際学部 国際学科	学年計
1年生	138	155	56	122	86	557
2年生	114	114	53	88	75	444
3年生	91	138	50	93	60	432
4年生	154	143	44	100	63	504
学部計	497	550	203	403	284	1937

	学年計
博士課程前期1年	37
博士課程前期2年	39
博士課程後期1年	5
博士課程後期2年	3
博士課程後期3年	6
修士課程1年	1
修士課程2年	0
大学院生計	91

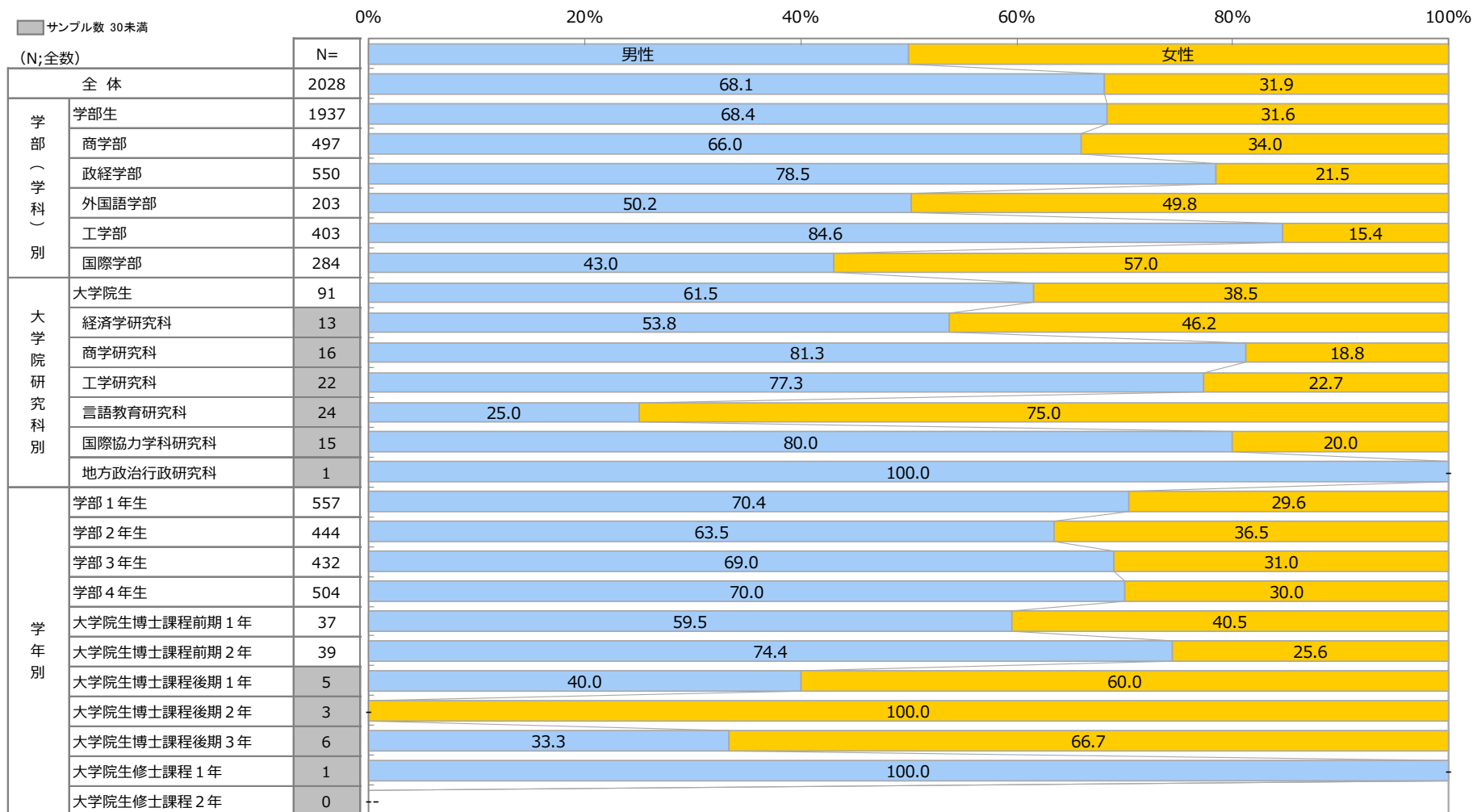
- ・ 調査主体：拓殖大学
- ・ 調査実施：ビデオリサーチ

回答者プロフィール

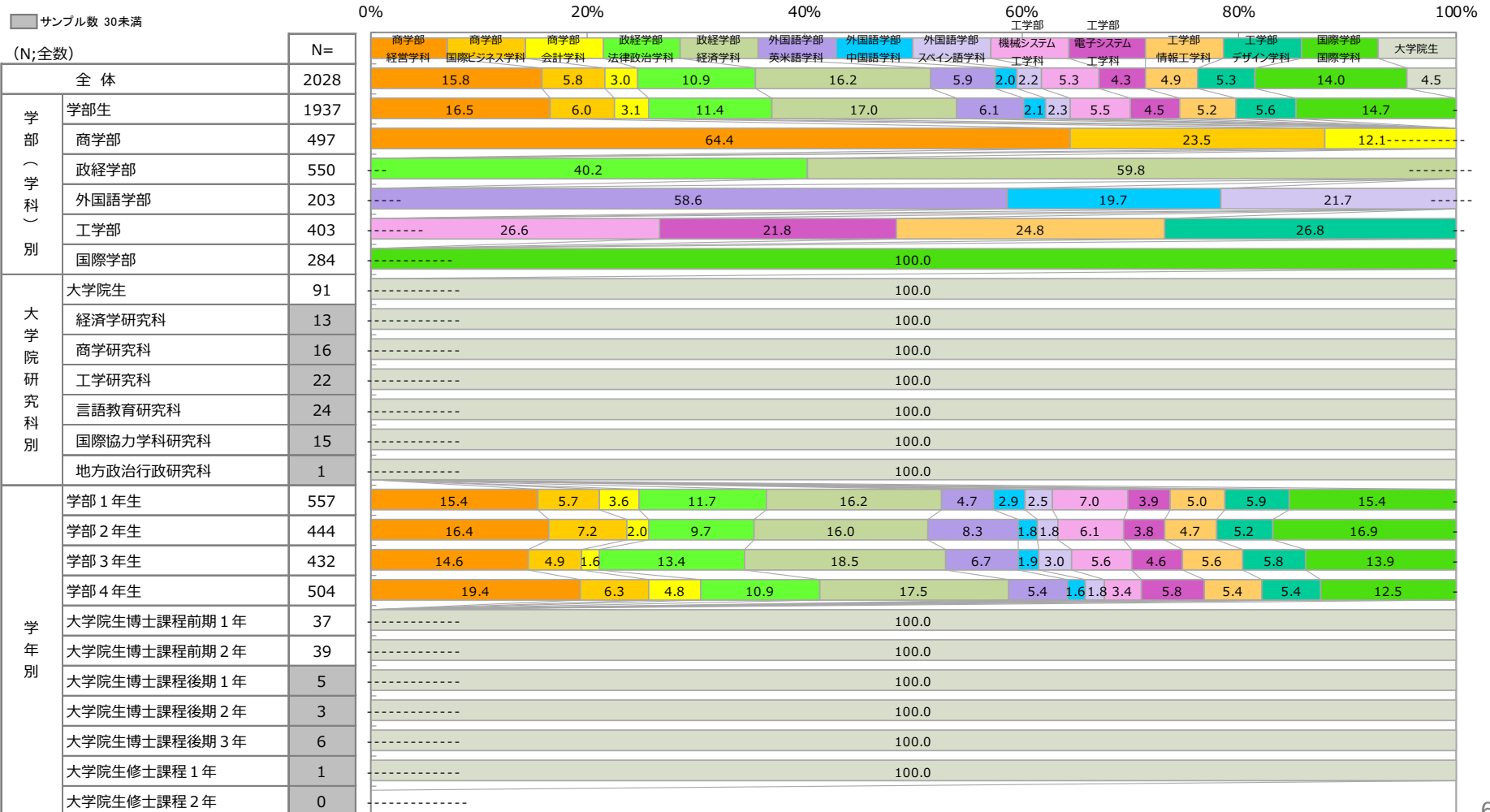
性別

Q1.あなたの性別をお知らせください。(SA)

- 性別は、全体で「男性」68.1%、「女性」31.9%である。
- 学部生、大学院生いずれも「男性」が「女性」を上回る。
学部生の中では、国際学部 国際学科は「女性」が「男性」を上回る。



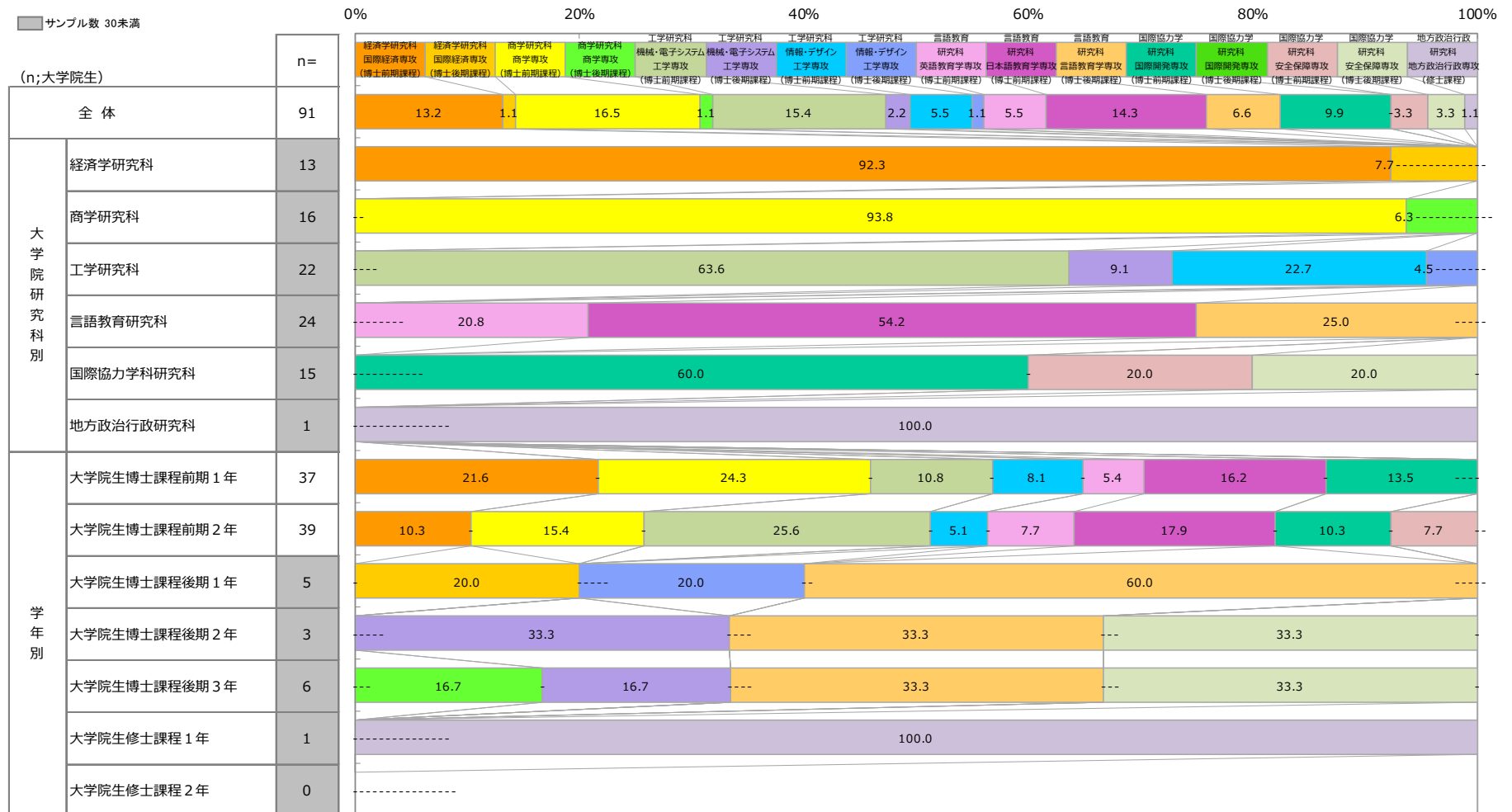
- ・所属は、全体で「政経学部 経済学科」が16.2%、「商学部 経営学科」が15.8%、「国際学部 国際学科」が14.0%、「政経学部 法律政治学科」が10.9%で10%を上回る。
 なお「大学院生」は4.5%である。



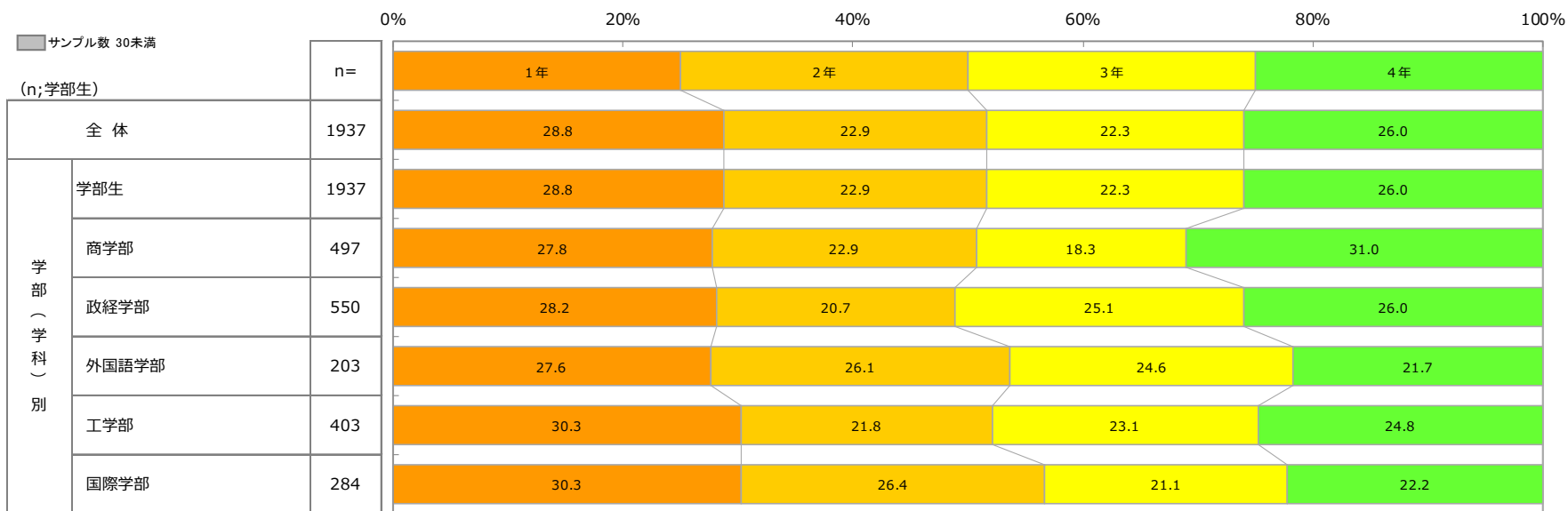
所属（大学院生）

Q2SQ.あなたの所属をお知らせください。（SA）

- ・大学院生の所属は、「商学研究科 商学専攻（博士前期課程）」が16.5%、「工学研究科 機械・電子システム 工学専攻（博士前期課程）」が15.4%、「言語教育研究科 日本語教育学専攻（博士前期課程）」が14.3%、「経済学研究科 国際経済専攻（博士前期課程）」が13.2%で10%を上回る。



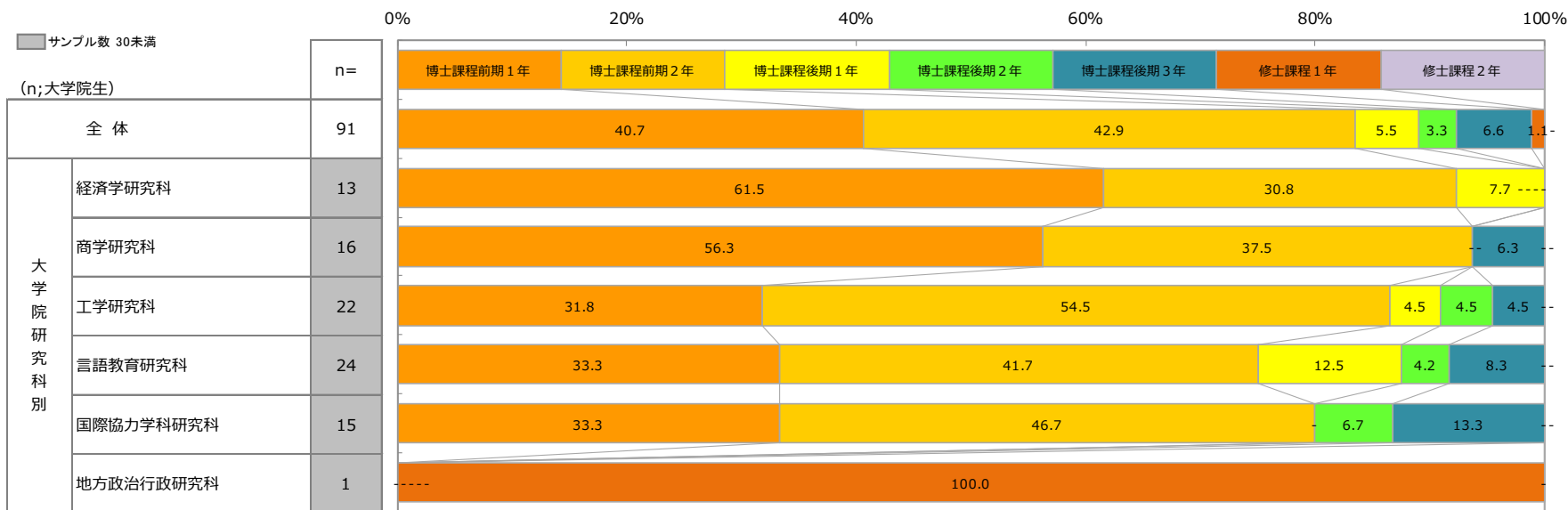
- ・学部生の学年は、「1年」が28.8%、「2年」が22.9%、「3年」が22.3%、「4年」が26.0%である。



学年（大学院生）

Q2SQ3.あなたの学年をお知らせください。（SA）

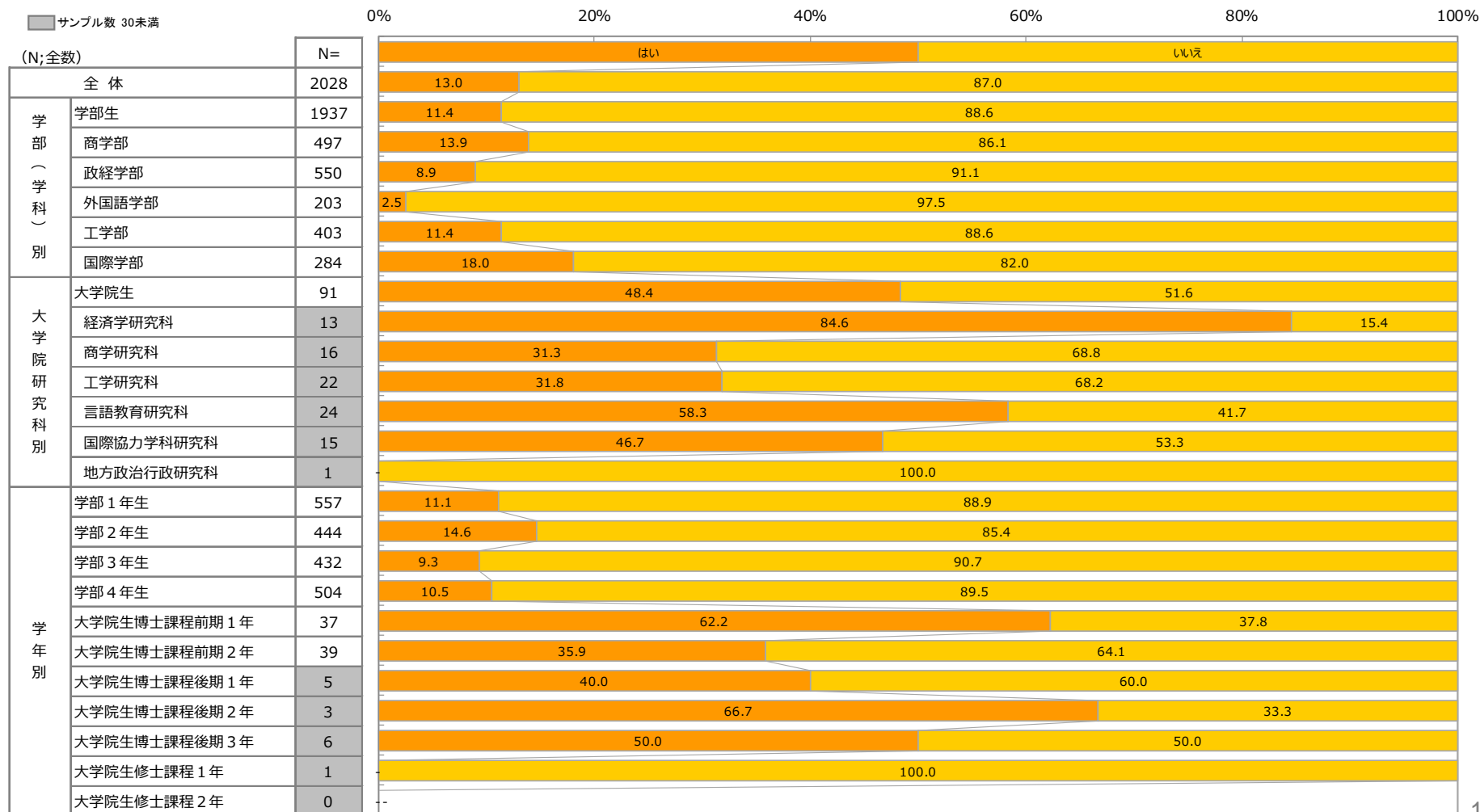
- ・大学院生の学年は、「博士課程前期1年」が40.7%、「博士課程前期2年」が42.9%である。「博士課程前期」が合計80%を占める。



外国人留学生か

Q3.あなたは外国人留学生ですか。(SA)

- 外国人留学生比率は、全体の13.0%で、学部生では国際学部 国際学科 (18.0%)、商学部 (13.9%)、工学部 (11.4%) で10%以上である。
- 大学院生では48.4%と約半数が外国人留学生である。



入試種類 (学部生)

Q4. 拓殖大学へはどのような選抜方法で入学しましたか。(SA)

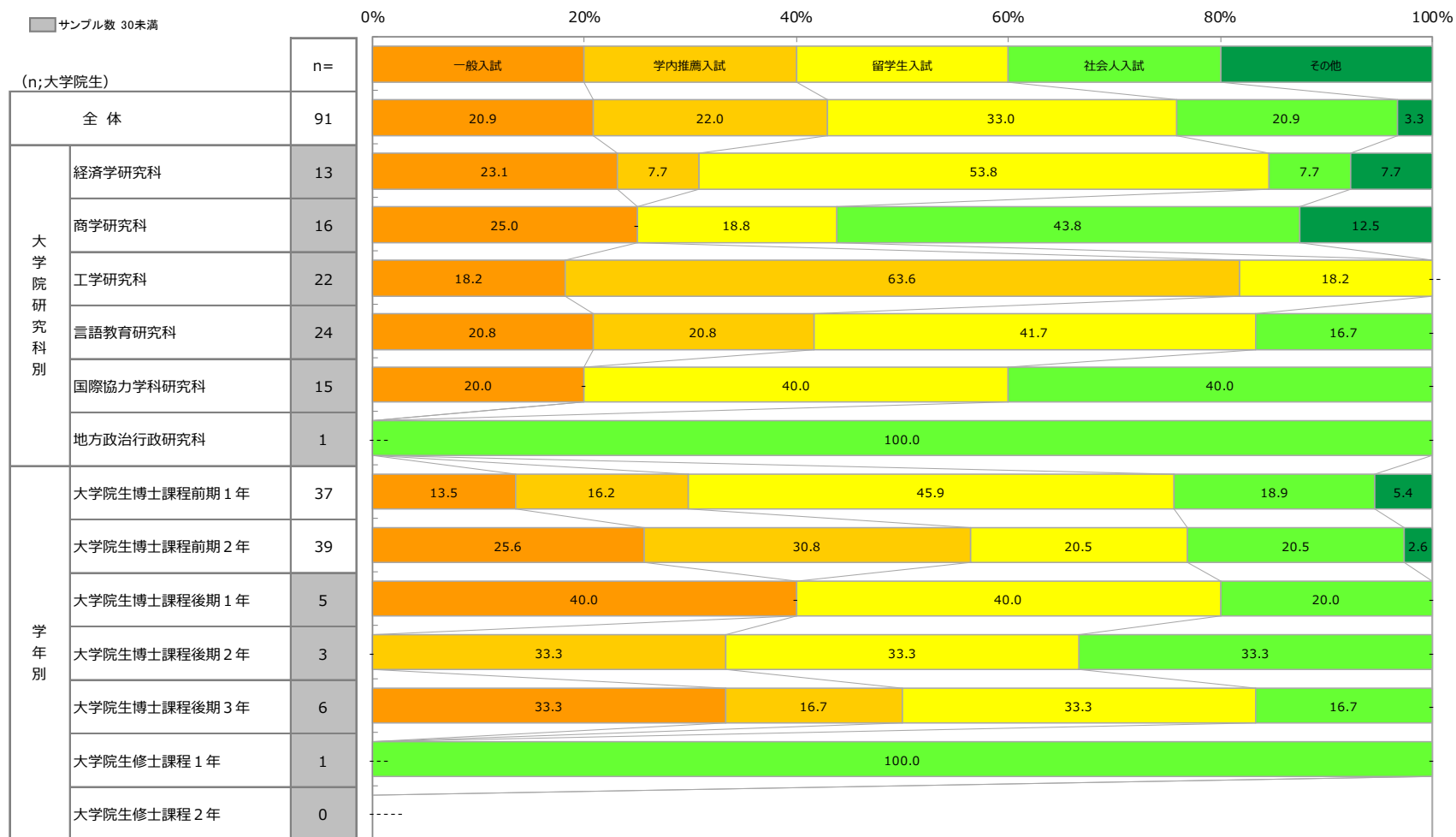
- 学部生の入試種類は、「一般入試」が37.5%で最も多く、「指定校推薦」が26.9%で続く。
- 学部別では、商学部 (+2.4pt) で「指定校推薦」が「一般入試」を上回る。他の学部では「一般入試」が最も多い。
- 学年別でも、全学年で「一般入試」が最も多い。



入試種類 (大学院生)

Q5. 拓殖大学大学院へはどのような選抜方法で入学しましたか。(SA)

- ・ 大学院生の入試種類は、「留学生入試」が33.0%で最も多く、「学内推薦入試」が22.0%で続く。

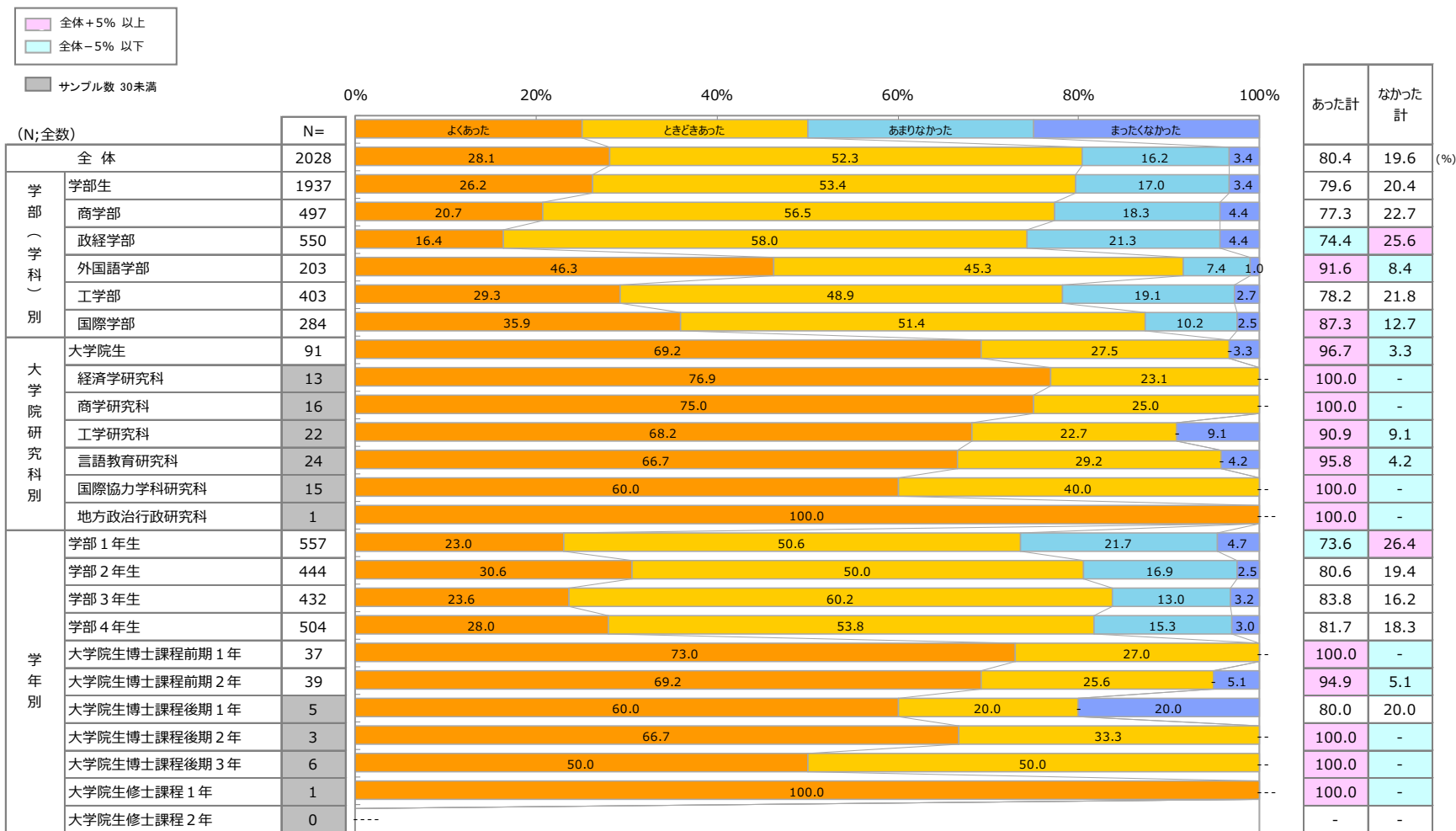


授業中での経験

自分の考えや課題を発表する授業有無

Q6.自分の考えや課題を発表する授業はありましたか。(SA)

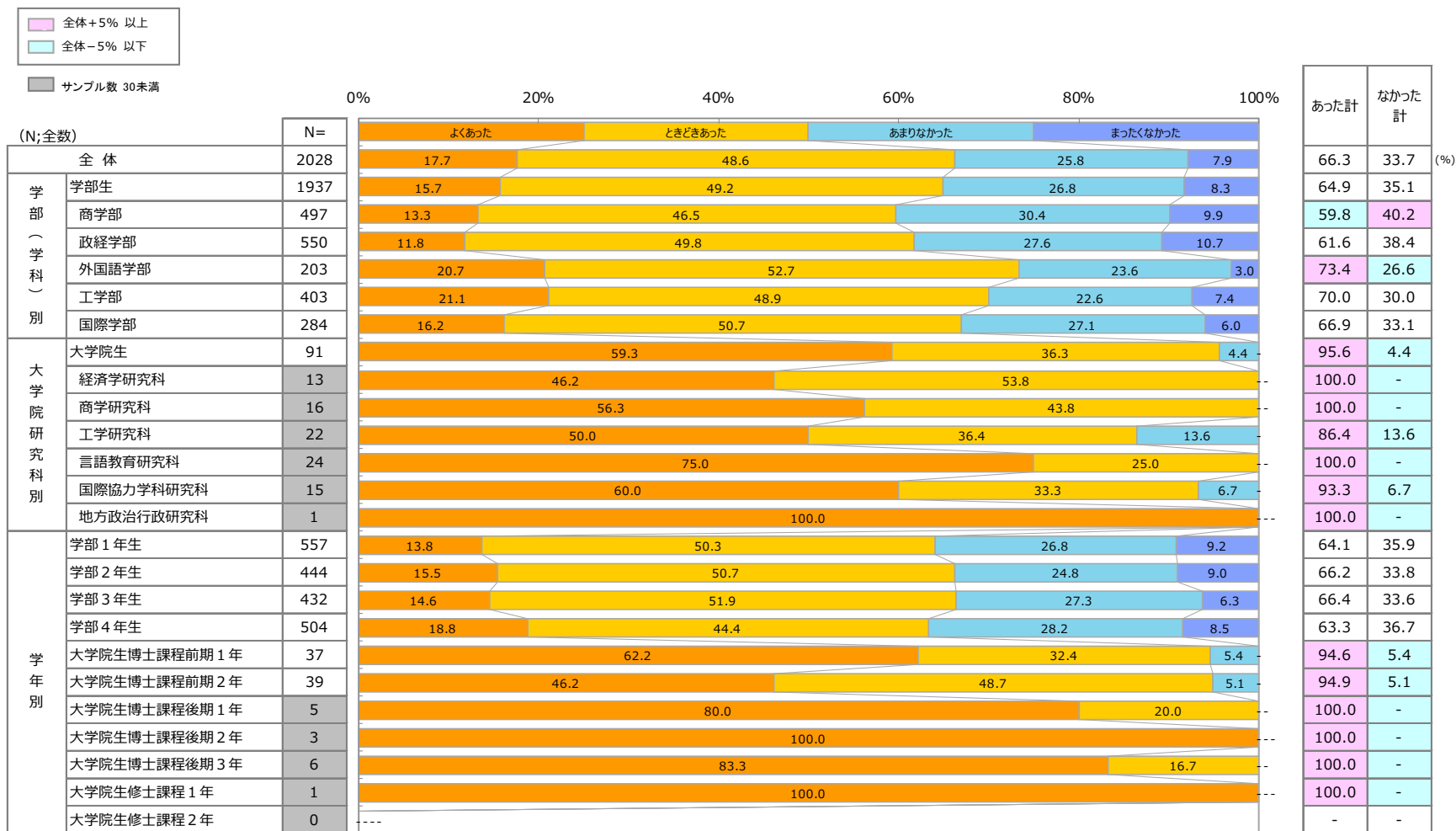
- ・自分の考えや課題を発表する授業が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の80.4%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の19.6%を大きく上回る。
- ・学部別では、各学部で「あった計」が「なかった計」を大きく上回る。「あった計」をみると、学部生では外国語学部が91.6%で最も高く、国際学部 国際学科が87.3%で続く。また、大学院生は「あった計」が96.7%（全体より+16.3pt）に達する。
- ・学年別で「あった計」をみると、学部3年生は83.8%で最も高く、続くのは4年生の81.7%となった。



教員への質問・意見を述べたことの経験有無

Q7.教員に質問したり、意見を述べたことはありましたか。(SA)

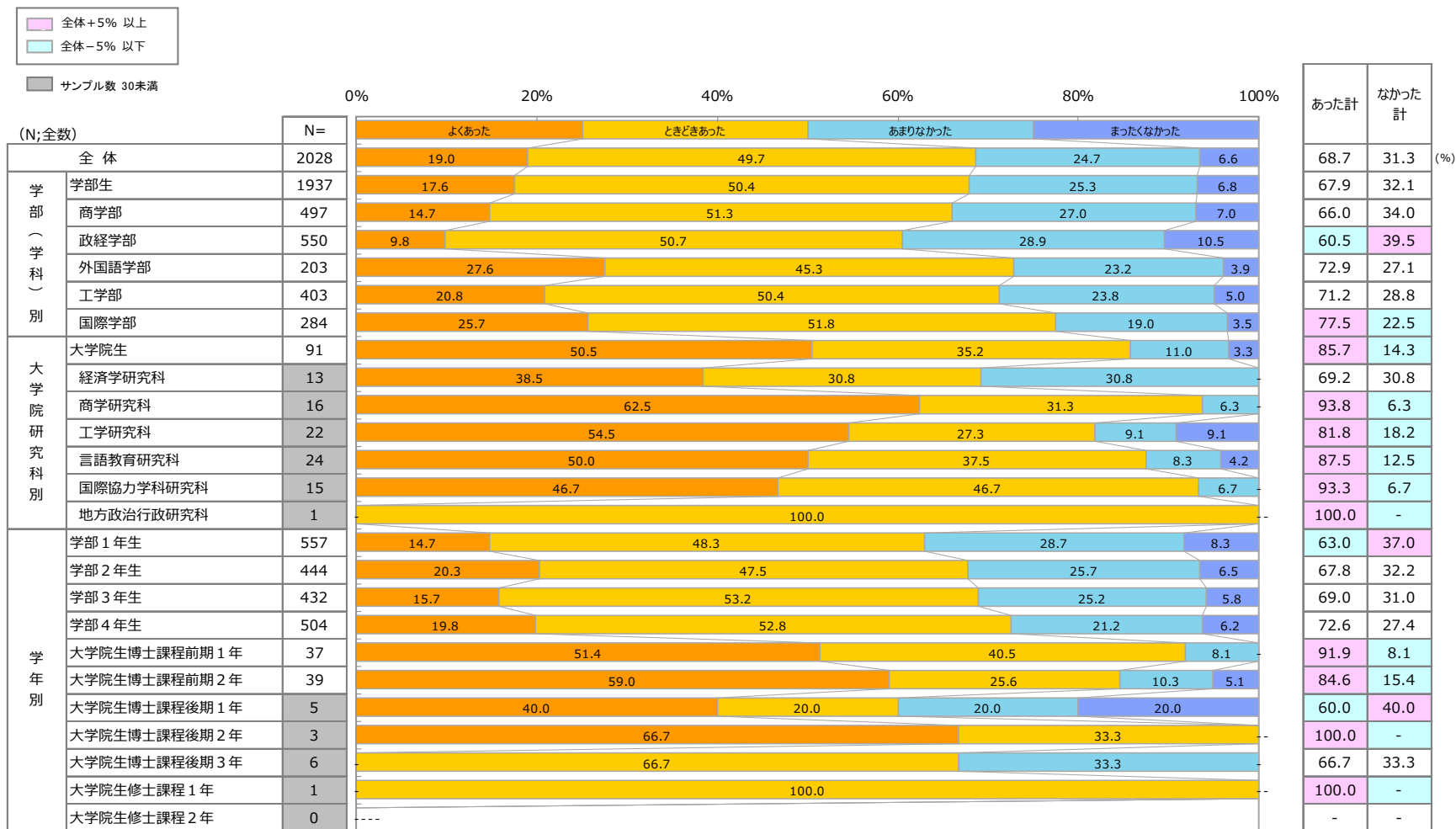
- ・教員への質問・意見を述べたことの経験が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の66.3%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の33.7%を上回る。
- ・学部別では、各学部で「あった計」が「なかった計」を上回る。なお、「なかった計」は、全体に比べ政経学部で6.5pt上回っている。「あった計」をみると、学部生では外国語学部が73.4%（全体より+7.1pt）で特に高く、工学部が70.0%（全体より+3.7pt）で続く。また、大学院生は「あった計」が95.6%に達する。
- ・学年別で「あった計」をみると、学部3年生は66.4%で最も高く、続くのは2年生の66.2%となった。



学生同士が議論する授業有無

Q8.学生同士が議論する授業はありましたか。(SA)

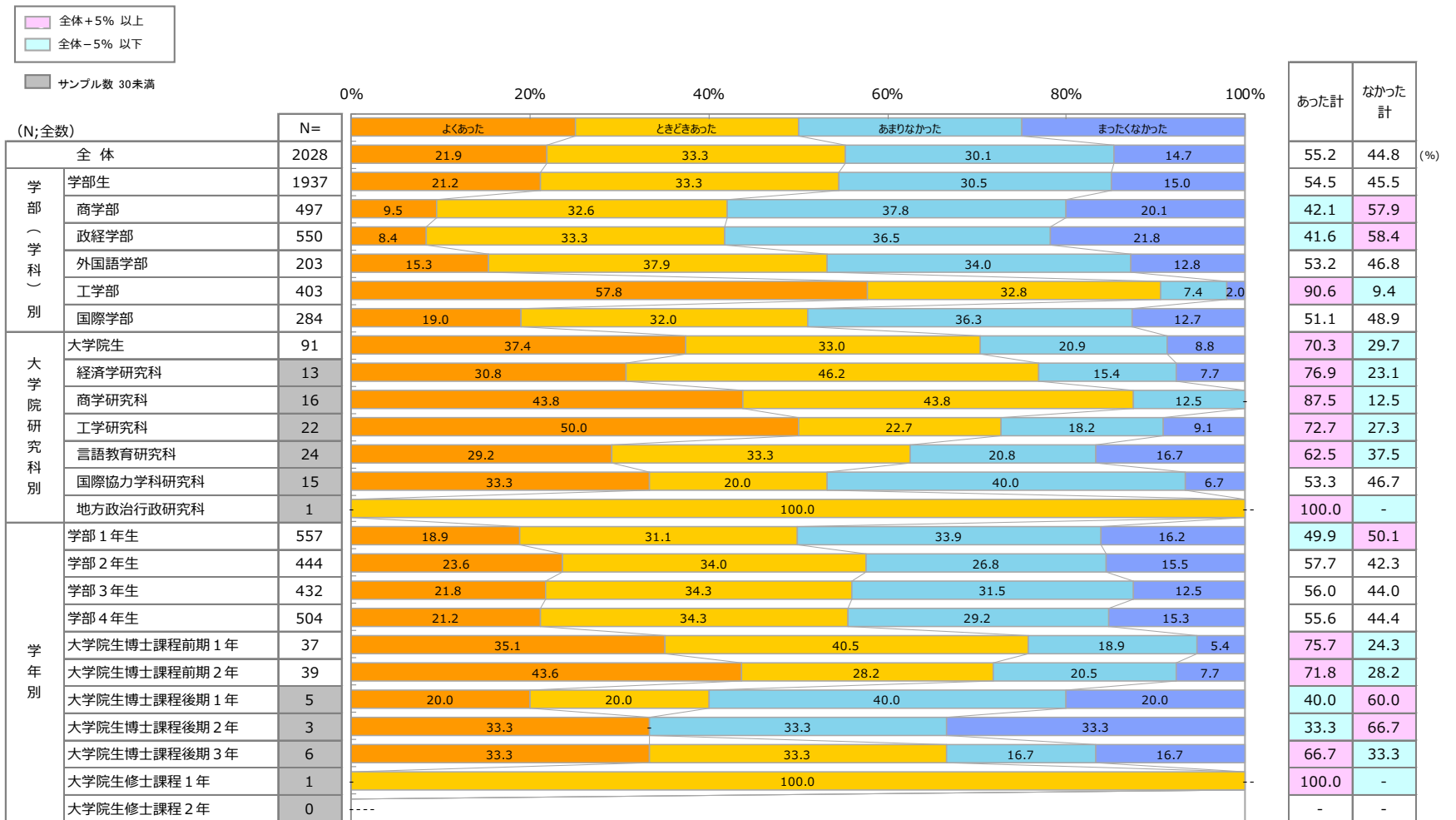
- ・学生同士が議論する授業が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の68.7%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の31.3%を上回る。
- ・学部別では、各学部で「あった計」が「なかった計」を上回る。なお政経学部は「なかった計」（全体より+8.2pt）が高い。「あった計」をみると、学部生では国際学部 国際学科が77.5%（全体より+8.8pt）で最も高く、外国語学部が72.9%（全体より+4.2pt）、工学部が71.2%（全体より+2.5pt）で続く。また大学院生は「あった計」が85.7%に達する。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「あった計」が上がる。



演習、実験、実習、フィールドワークなど体験授業有無

Q9. 演習、実験、実習、フィールドワークなどを通して体験する授業はありましたか。(SA)

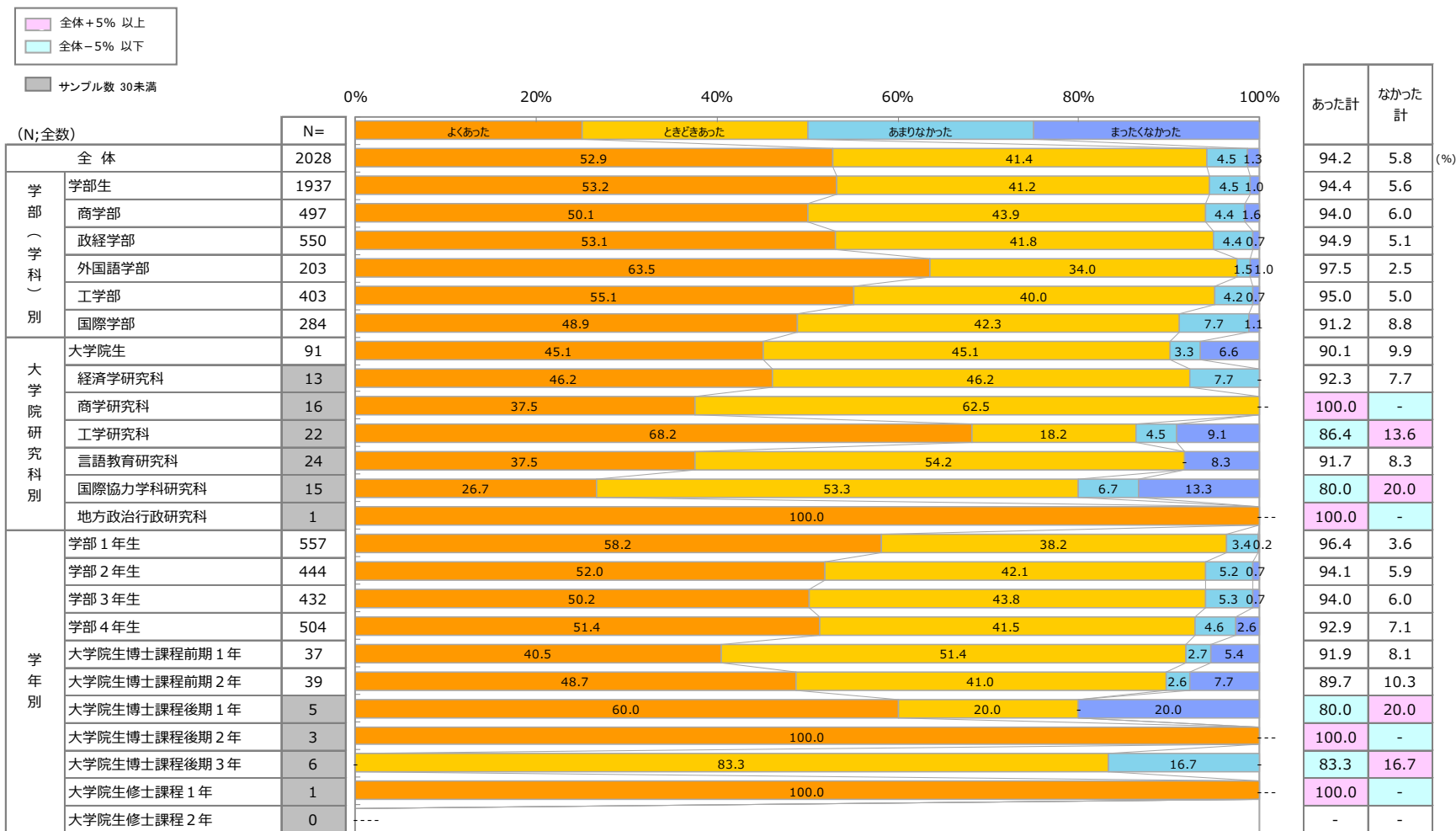
- ・演習、実験、実習、フィールドワークなど体験授業が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の55.2%で、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」は44.8%。
- ・学部別では、外国語学部、工学部、国際学部 国際学科のみ「あった計」が「なかった計」を上回る。特に工学部では90.6%に達した。
- また、大学院生の「あった計」は70.3%であった。
- ・学年別で「あった計」をみると、学部2年生は57.7%で最も高く、続くのは3年生の56.0%となった。



定期的な小テスト・レポートのある授業有無

Q10.定期的な小テストやレポートが課せられた授業はありましたか。(SA)

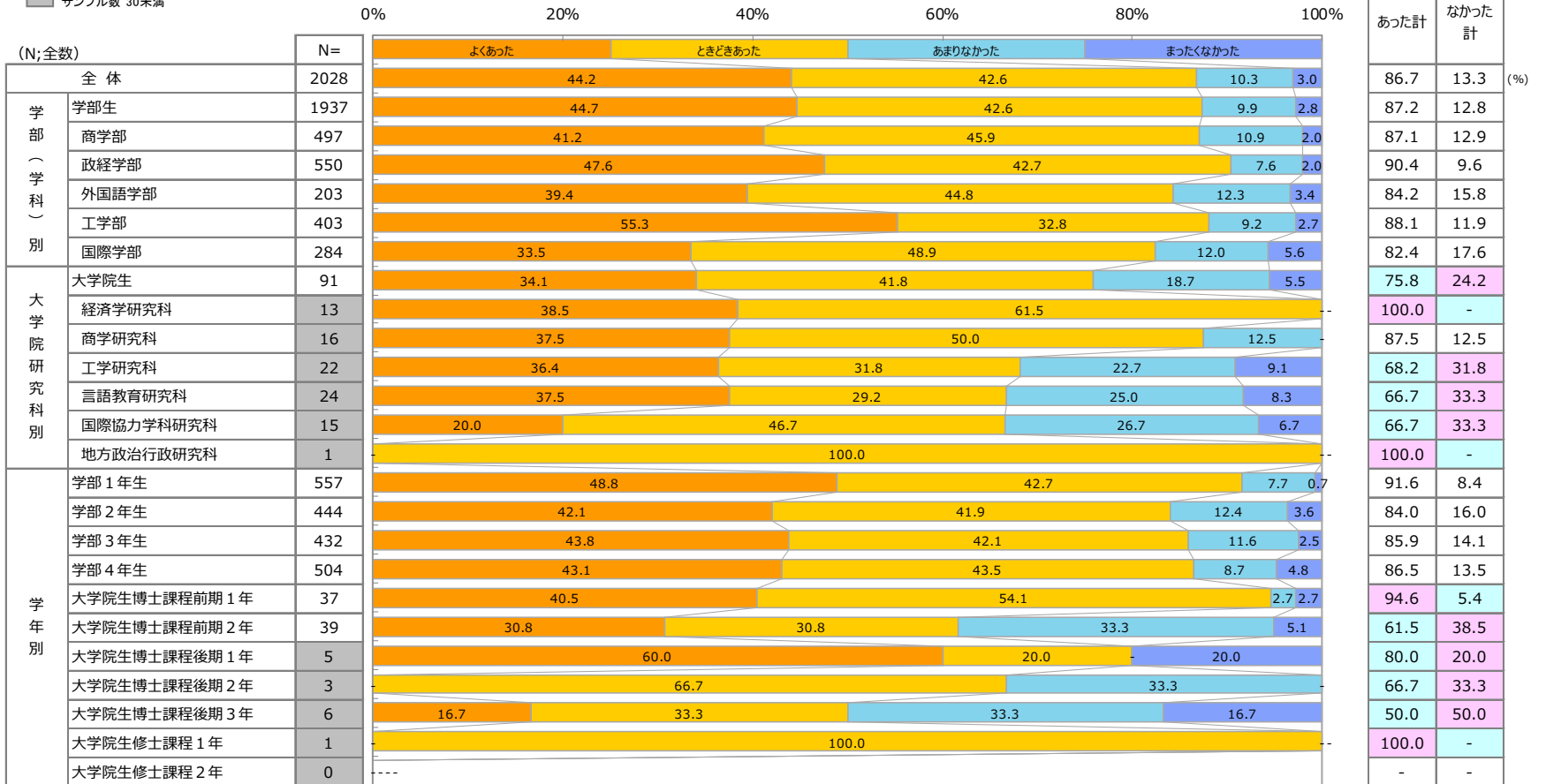
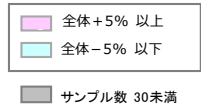
- ・定期的な小テスト・レポートのある授業が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の94.2%に達した。
- ・各学部をみても「あった計」は90%台と大きな差はみられない。また、大学院生の「あった計」は92.3%に達する。
- ・各学年でみても「あった計」は90%台と大きな差はみられない。



Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業の有無

Q11.Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業はありましたか。(SA)

- Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の86.7%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の13.3%を大きく上回る。
- 学部別では、各学部で「あった計」が「なかった計」を上回る。その中で、国際学部 国際学科は「あった計」が82.4%で最も低い。
- また、大学院生の「あった計」は75.8%であった。
- 学年別で「あった計」をみると、学部1年生は91.6%で最も高く、続くのは4年生の86.5%となった。

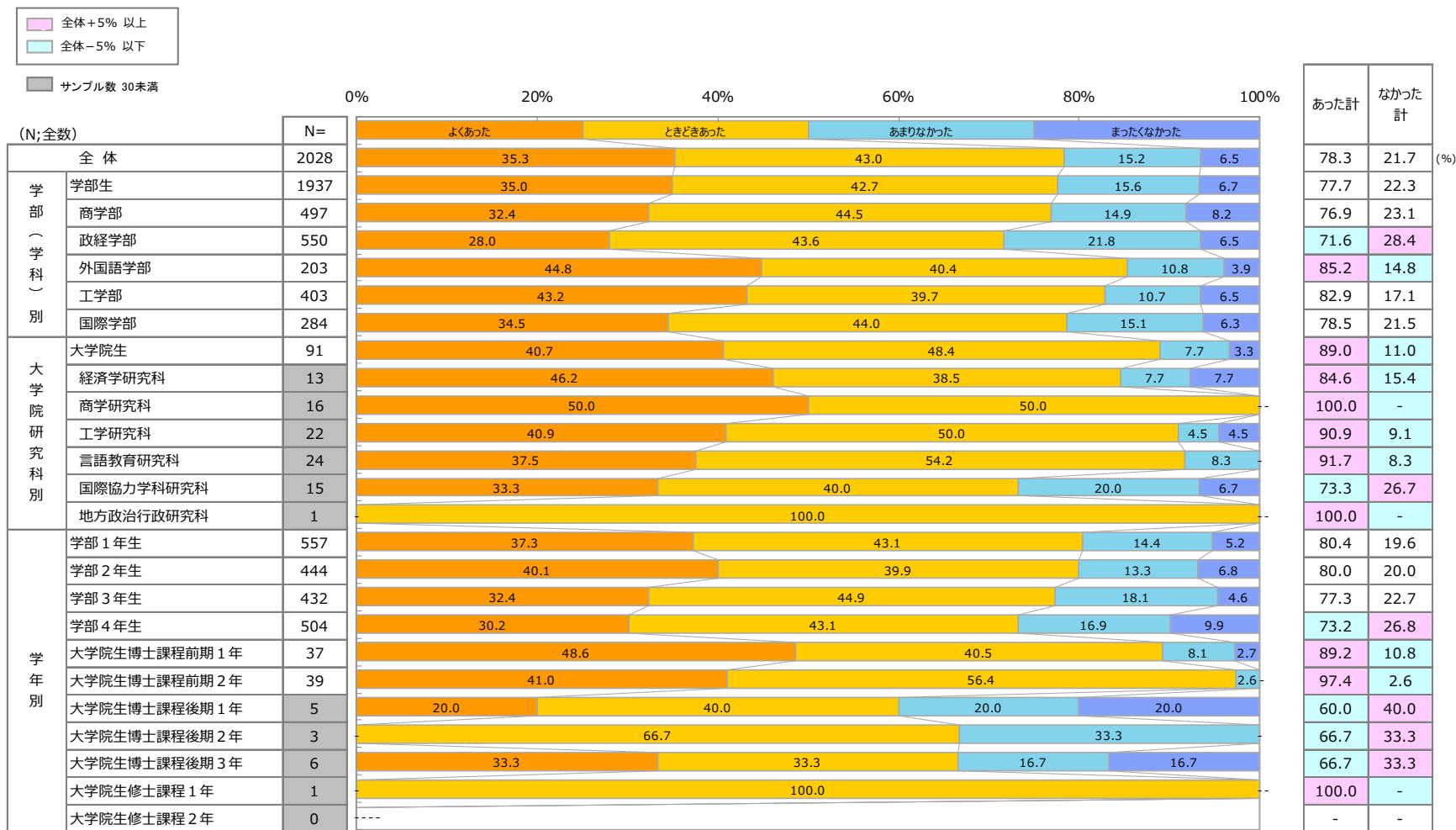


授業時間外の学習態度

他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験有無

Q12.他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強したことがありますか。(SA)

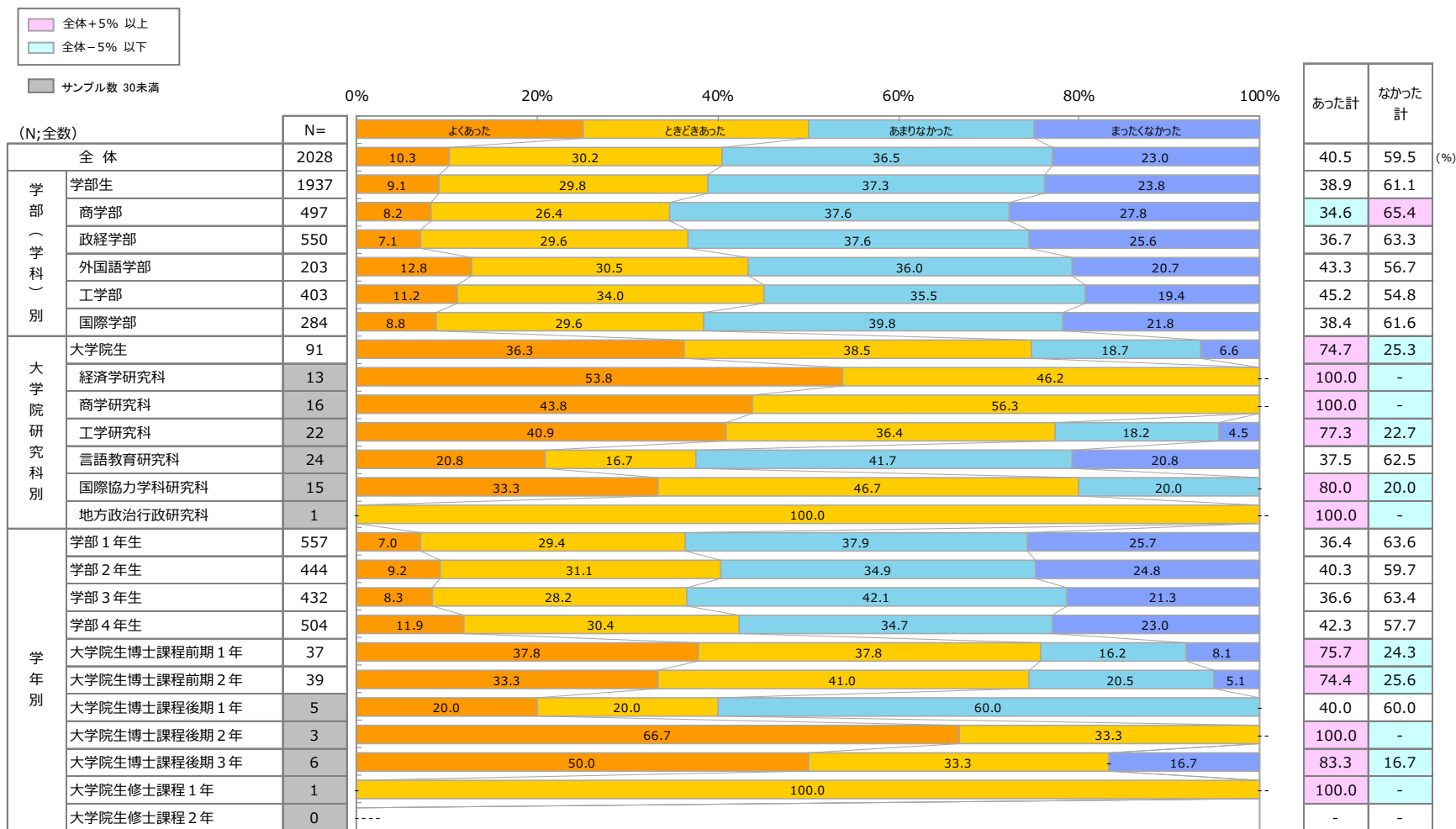
- 他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の78.3%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の21.7%を大きく上回る。
- 学部別では、各学部で「あった計」が「なかった計」を大きく上回る。「あった計」をみると、学部生では外国語学部が85.2%で最も高い。大学院生は「あった計」が89.0%。
- 学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「あった計」が下がる。



教職員への学修に関する相談経験有無

Q13.教職員に学修に関する相談をしたことがありましたか。(SA)

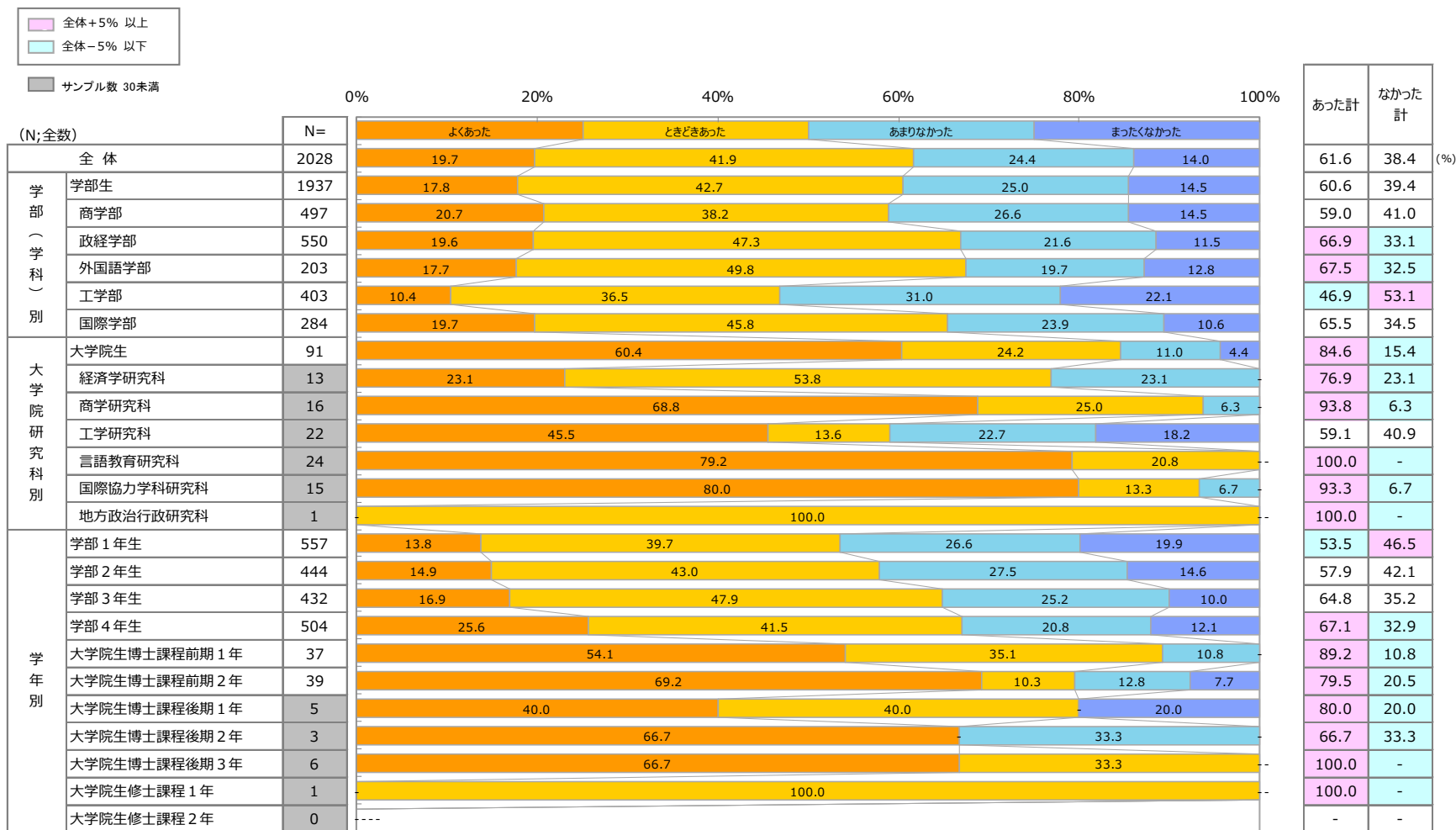
- ・教職員への学修に関する相談経験が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の40.5%と、「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の59.5%を下回る。
- ・学部別では、学部生は全ての学部で「あった計」が「なかった計」を下回る。「あった計」をみると、学部生では工学部が45.2%で最も高い。大学院生は「あった計」が74.7%と、学部生よりも高い。
- ・学年別で「あった計」をみると、学部4年生は42.3%で最も高く、続くのは2年生の40.3%となった。



授業や課題のため図書館で資料・文献を調べた経験の有無

Q14.授業や課題のために図書館で資料・文献を調べたことがありますか。(SA)

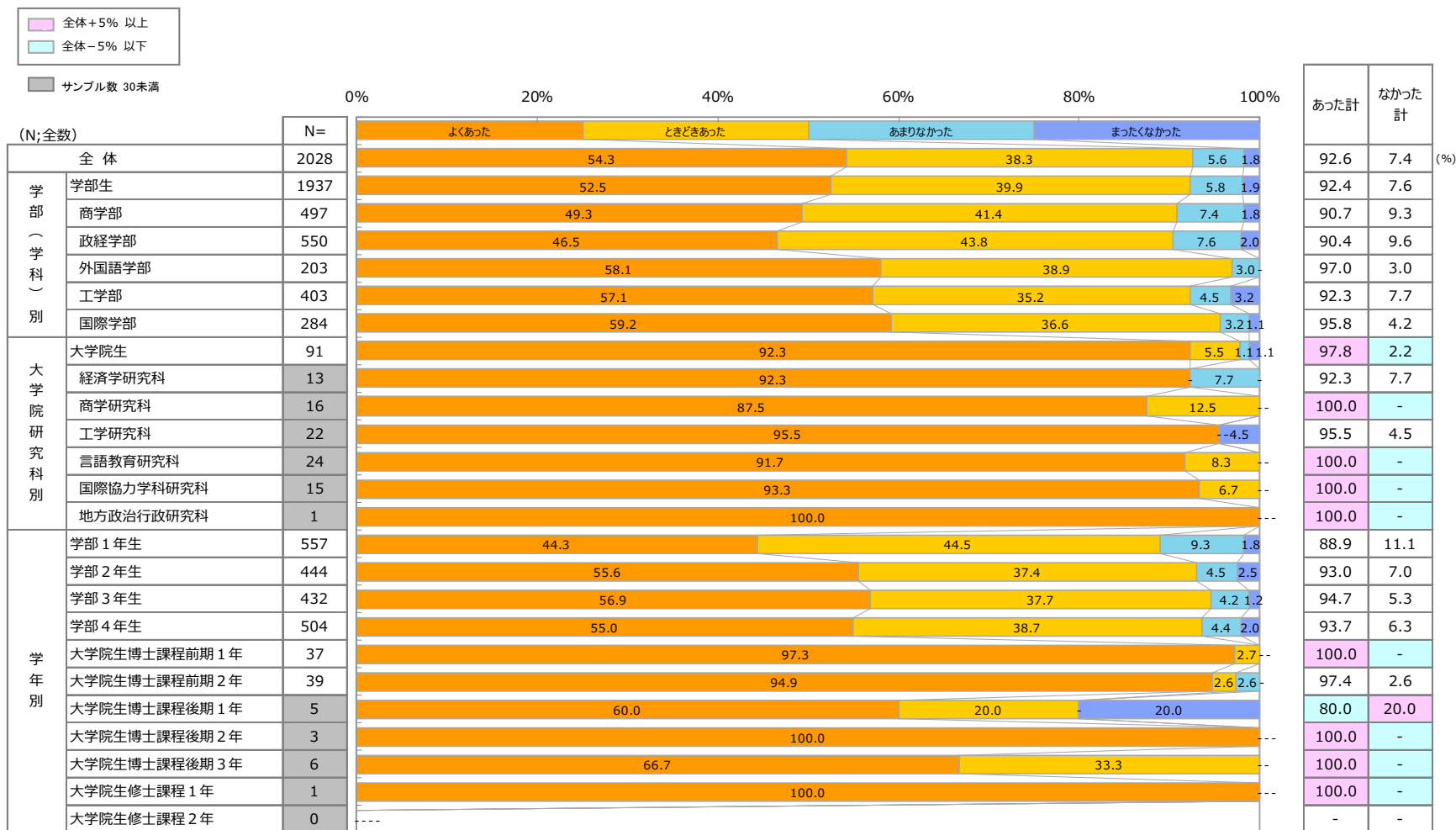
- ・授業や課題のため図書館で資料・文献を調べた経験が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の61.6%と「なかった計（あまりなかった+まったくなかった）」の38.4%を上回る。
- ・学部別では、工学部以外の各学部で「あった計」が「なかった計」を上回る。工学部では「あった計」が46.9%なのに対し「なかった計」が53.1%であった。「あった計」をみると、学部生では外国語学部が67.5%（全体より+5.9pt）で最も高い。大学院生は「あった計」が84.6%に達する。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「あった計」が上がる。



授業や課題のためインターネットでの情報収集経験有無

Q15.授業や課題のためにインターネットで情報を集めたりしたことがありますか。(SA)

- ・ 授業や課題のためインターネットでの情報収集経験が「あった計（よくあった+ときどきあった）」は全体の92.6%に達している。
- ・ 各学部をみても「あった計」は90%台と大きな差はみられない。大学院生は「あった計」が97.8%という結果になった。
- ・ 学年別で「あった計」をみると、一番低い学部1年生でも88.9%に達し、他の学年は90%以上となっている。

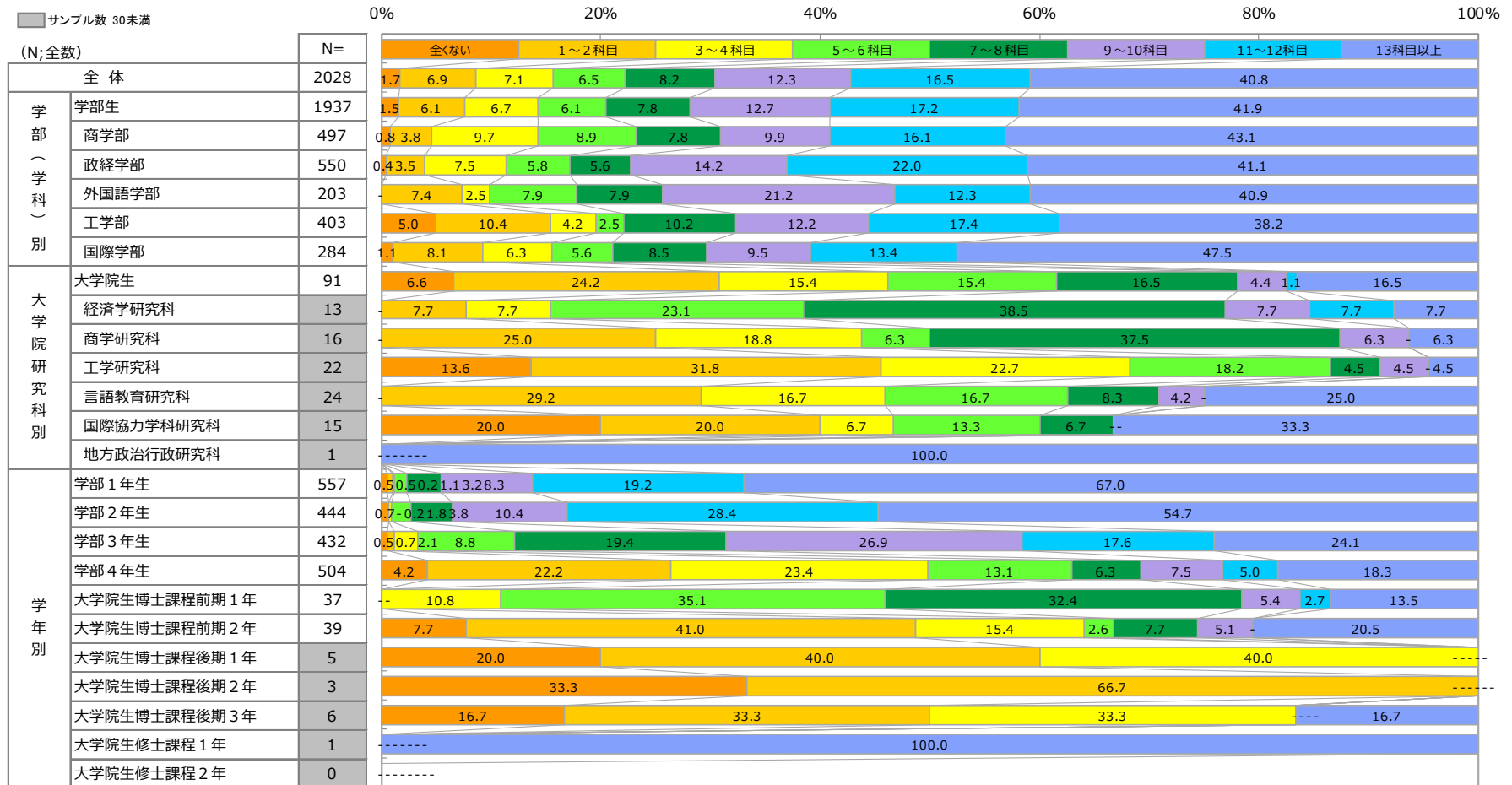


本年度の週当たりの 学修等時間

週当たりの授業出席科目数

Q16.どの程度授業に出席しましたか。(SA)

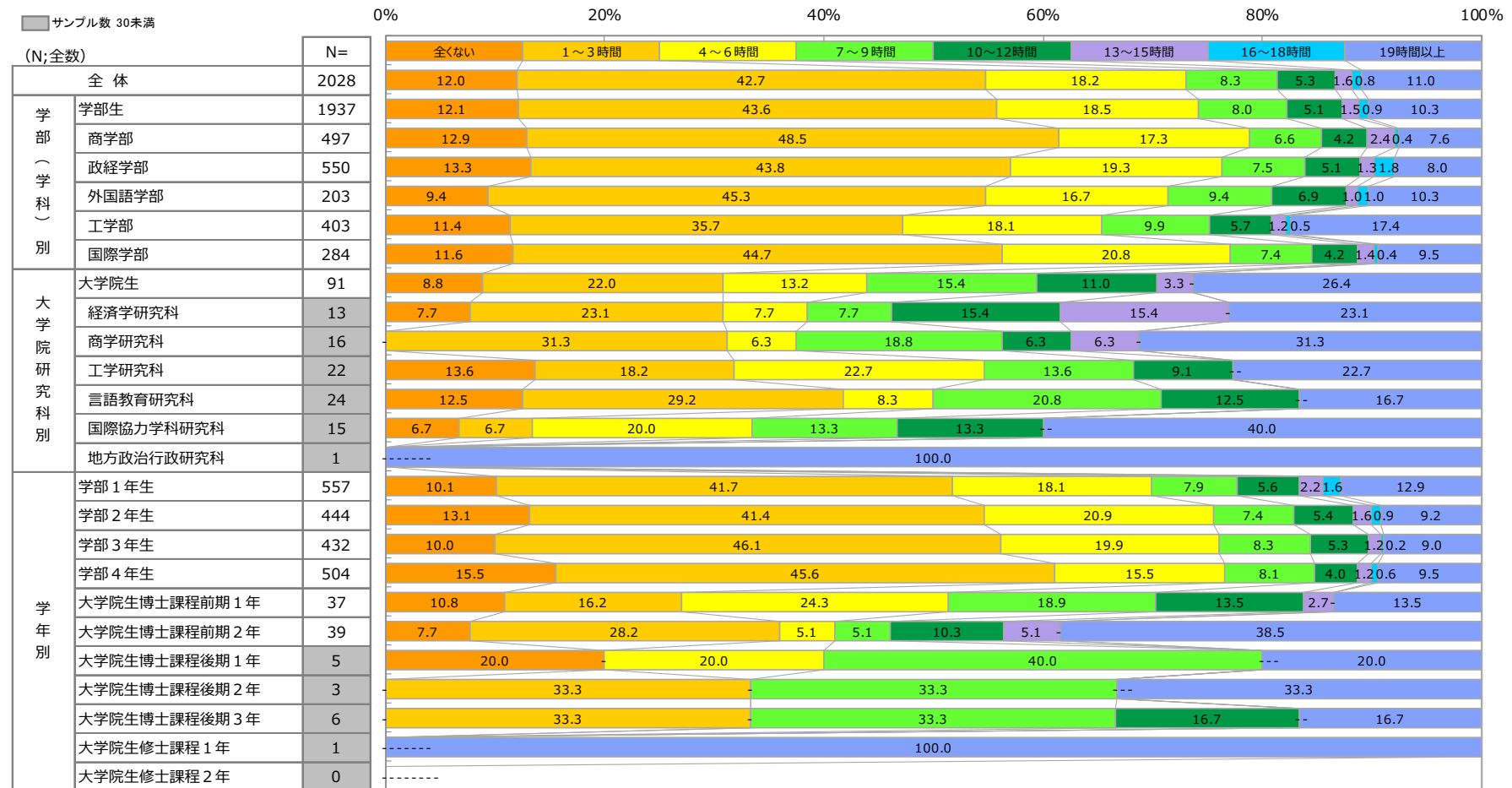
- 週当たりの授業出席科目数は「13科目以上」が全体の40.8%で最も多い。「11～12科目」が16.5%、「9～10科目」が12.3%で続く。
- 学部別では、学部生は全ての学部で「13科目以上」が最も多く、国際学部 国際学科が47.5%で最も高い。大学院生は「1～2科目」(24.2%)が最も多く、以降、「7～8科目」(16.5%)、「13科目以上」(16.5%)と続く。
- 学年別では、学部1年生、2年生は「13科目以上」が50%以上だが、3年生以降はそのスコア水準が大きく下がる。4年生では「3～4科目」が23.4%で最も多い。



週当たりの授業時間以外での授業関連学修・経験時間

Q17.授業時間以外に授業と関連した学修や経験をどの程度しましたか。(SA)

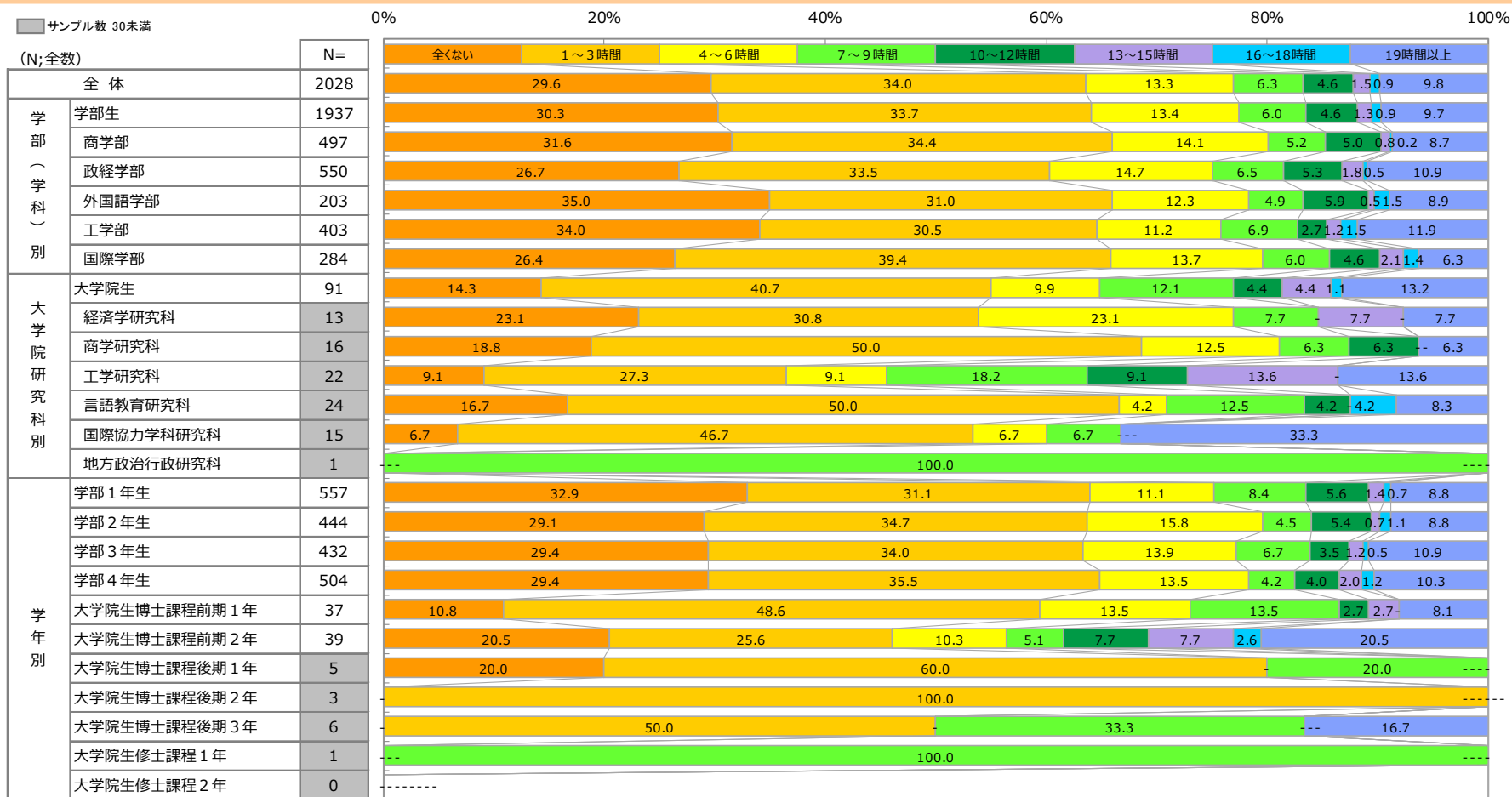
- ・週当たりの授業時間以外での授業関連学修・経験時間は全体で見ると、「1～3時間」が42.7%で最も多い。以降、「4～6時間」が18.2%、「19時間以上」が11.0%で続く。なお「全くない」は12.0%。
- ・学部別では、学部生は全ての学部で「1～3時間」が最も多く、商学部が48.5%で最も高い。なお、工学部（17.4%）、外国語学部（10.3%）では「19時間以上」が10%以上。大学院生は「19時間以上」が26.4%で最も多い（全体より+15.4pt）。
- ・学年別では、学部1年生から4年生までどの学年でも「1～3時間」が4割台と最も多い。



週当たりの授業と関連しない読書時間

Q18.授業と関連しない読書をどの程度しましたか（マンガ・雑誌を除く）。（SA）

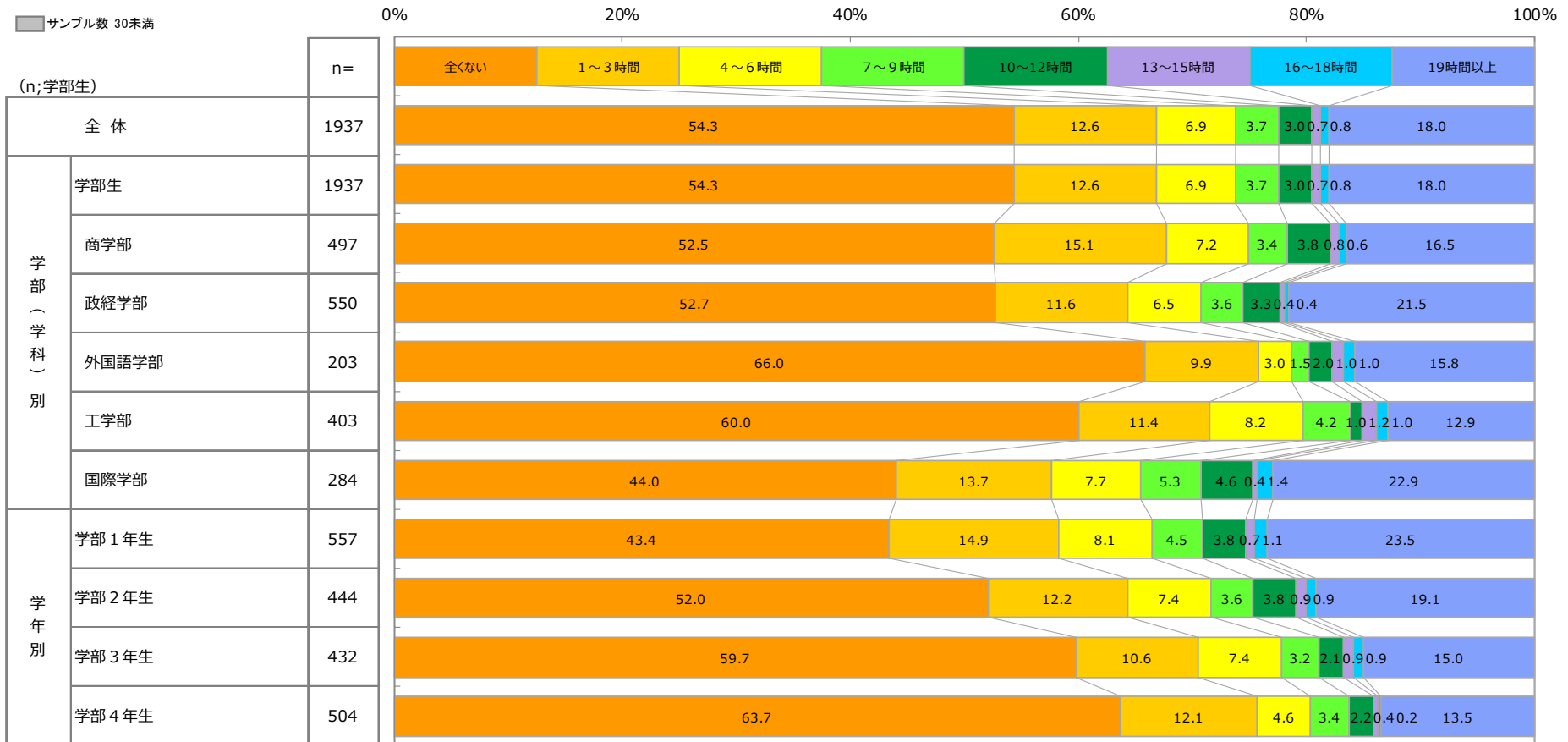
- 週当たりの授業と関連しない読書時間は全体で見ると、「1～3時間」が34.0%で最も多い。「4～6時間」が13.3%で続く。
- 学部別で、1時間以上の合計をみると、国際学部 国際学科（73.6%）が最も時間を割いており、政経学部（73.3%）が続く。各学部で「1～3時間」は国際学部 国際学科（39.4%）が最も高い。工学部で「19時間以上」が11.9%と特徴的。大学院生は「1～3時間」（40.7%）が最も多く、「7～9時間」が12.1%、「19時間以上」が13.2%と学部生より時間を割いていることが伺える。
- 学年別では、学部1年生から4年生までどの学年でも「1～3時間」が最も多い。



週当たりの部活動・サークル活動参加時間

Q19.どの程度部活動やサークル活動に参加しましたか。(SA)

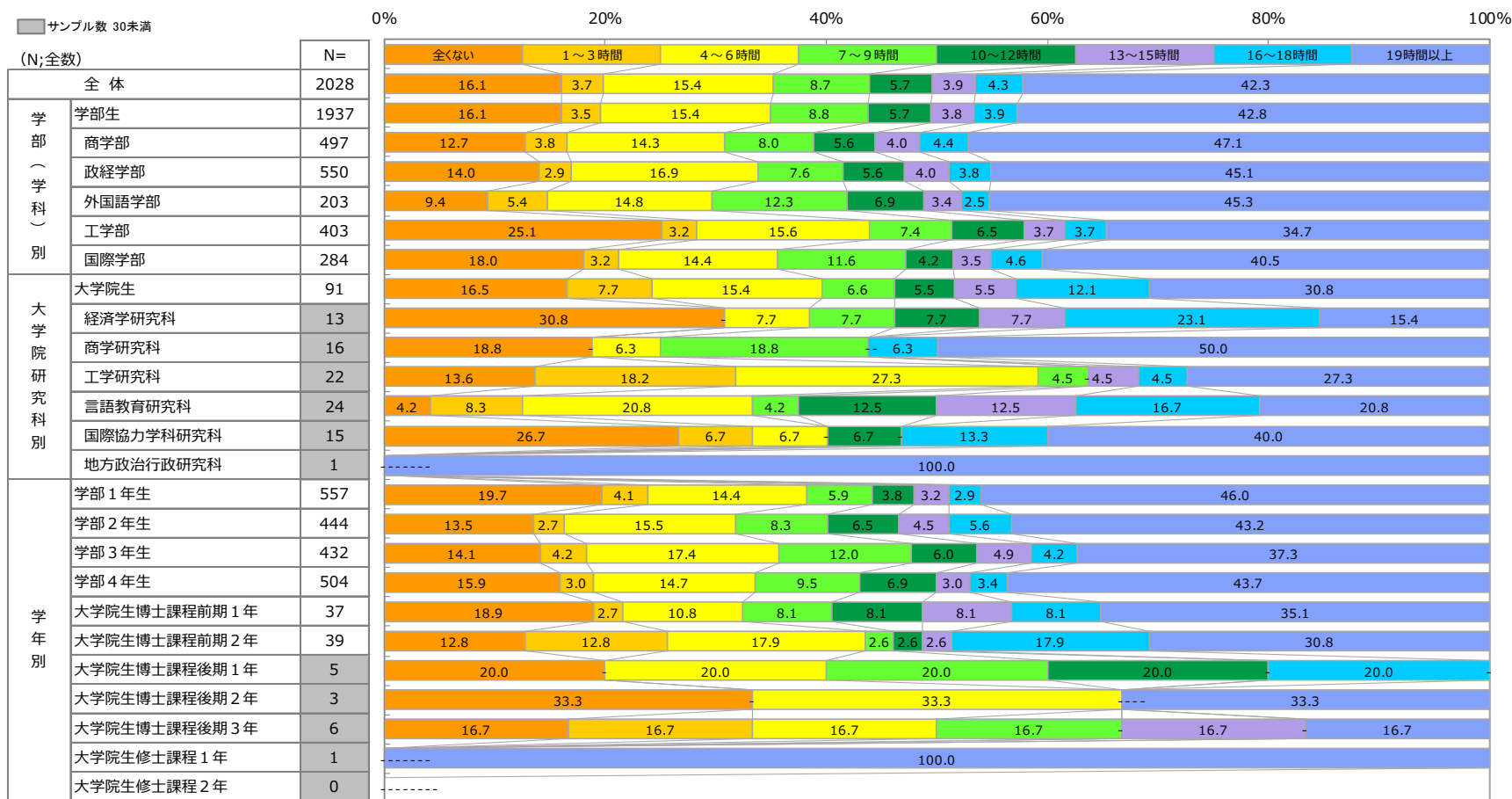
- 学部生の週当たりの部活動・サークル活動参加時間は全体で見ると、「19時間以上」が18.0%で最も多い。「1～3時間」が12.6%で続く。
- 学部別で、1時間以上の合計をみると、国際学部 国際学科 (56.0%)が最も時間を割いており、商学部 (47.5%)が続く。参加時間は「19時間以上」が国際学部 国際学科(22.9%)、政経学部 (21.5%)、商学部 (16.5%)、外国語学部(15.8%)と続く。外国語学部の1時間以上の合計は34.2%と最も低い。
- 学年別では、1年生の1時間以上の部活動・サークル活動の参加が最も多く (56.6%)、以降、学年が上がるにつれスコアは下がっていく。4年生では36.3%となる。



週当たりのアルバイト・就労時間

Q20.どの程度アルバイトや仕事をしましたか。(SA)

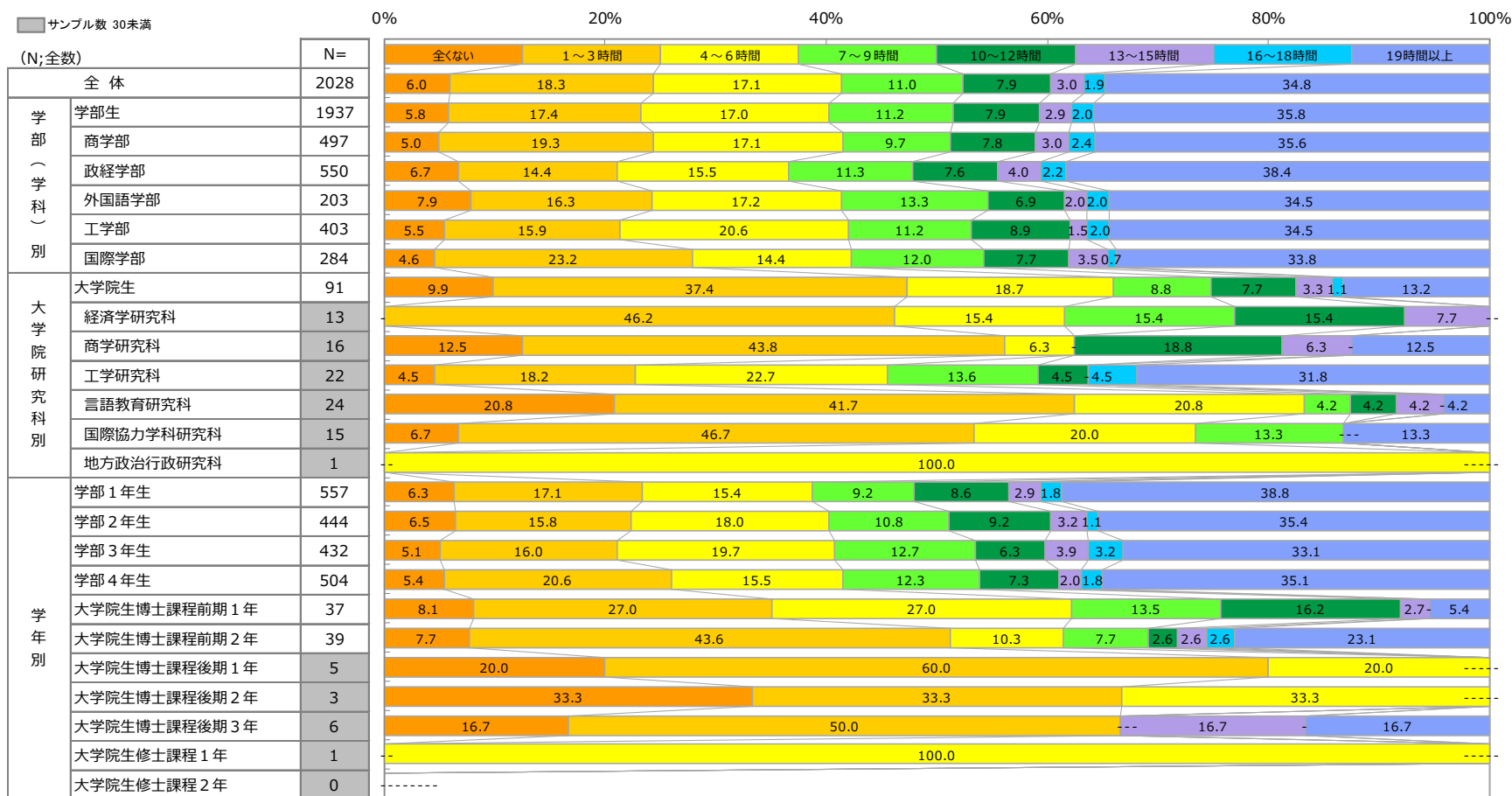
- ・週当たりのアルバイト・就労時間は全体でみると、「19時間以上」が42.3%で最も多い。「4～6時間」が15.4%、「7～9時間」が8.7%で続く。
- ・学部別で、1時間以上の合計をみると、外国語学部（90.6%）が最も時間を割いており、商学部（87.3%）、政経学部（86.0%）が続く。
学部生は全ての学部で「19時間以上」が最も多く、商学部（47.1%）、外国語学部（45.3%）、政経学部（45.1%）、国際学部 国際学科（40.5%）、工学部（34.7%）の順で高い。
大学院生は「19時間以上」が30.8%。
- ・学年別では、学部1年生から4年生までどの学年でも「19時間以上」が最も多い。



週当たりの個人的な趣味活動時間

Q21.どの程度個人的な趣味活動をしましたか。(SA)

- ・週当たりの個人的な趣味活動時間は全体で見ると、「19時間以上」が34.8%で最も多い。「1～3時間」が18.3%、「4～6時間」が17.1%、「7～9時間」が11.0%で続く。
- ・学部別で、1時間以上の合計をみると、学部間での差はさほどない（いずれも90%台）。学部生は全ての学部で「19時間以上」が最も多く、いずれも30%以上。大学院生は「1～3時間」が37.4%で最も多い。
- ・学年別では、学部1年生から4年生までどの学年でも「19時間以上」が最も多い。

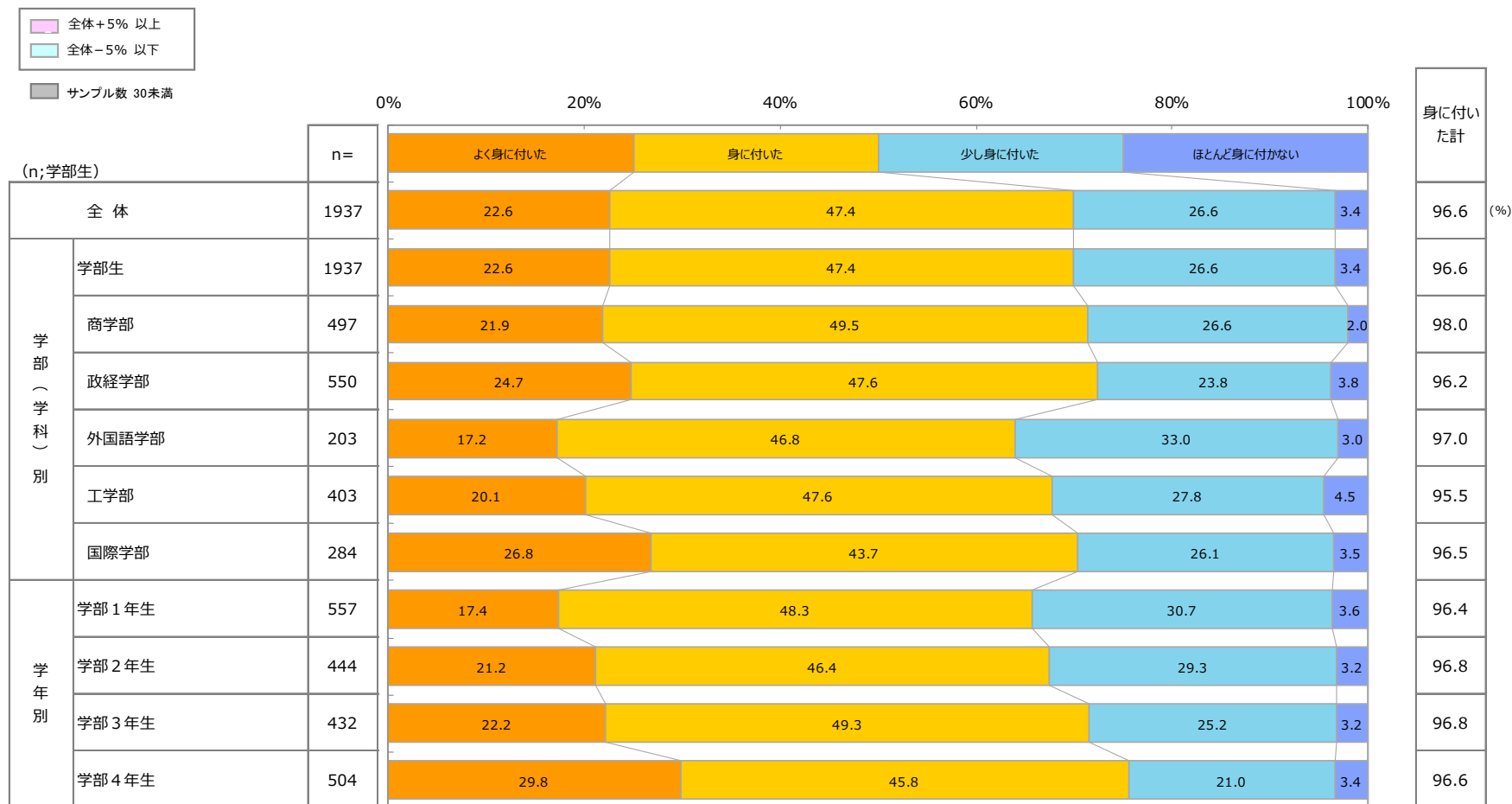


入学時と比べ、身に付いた
学修成果・経験

一般的な教養

Q22. 一般的な教養が身に付きましたか。(SA)

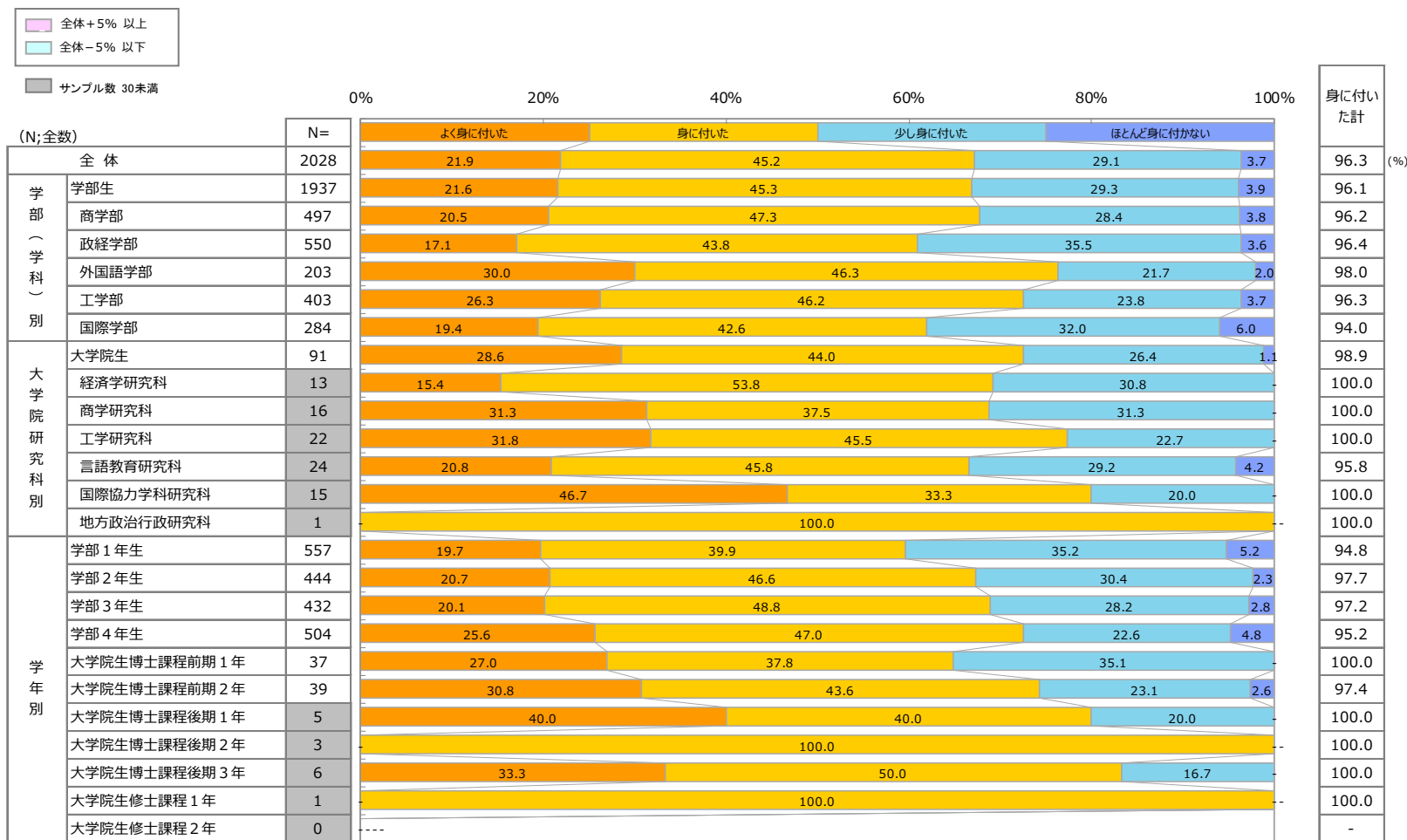
- 学部生の一般的な教養の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の96.6%に達し、「よく身に付いた」は22.6%となった。
- 学部別では、各学部で「身に付いた計」が95%以上。
「よく身に付いた」をみると、国際学部 国際学科が26.8%で最も高く、政経学部が24.7%、商学部が21.9%と続く。
- 学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



専門分野に関する知識・技能

Q23.専門分野に関する知識・技能が身に付きましたか。(SA)

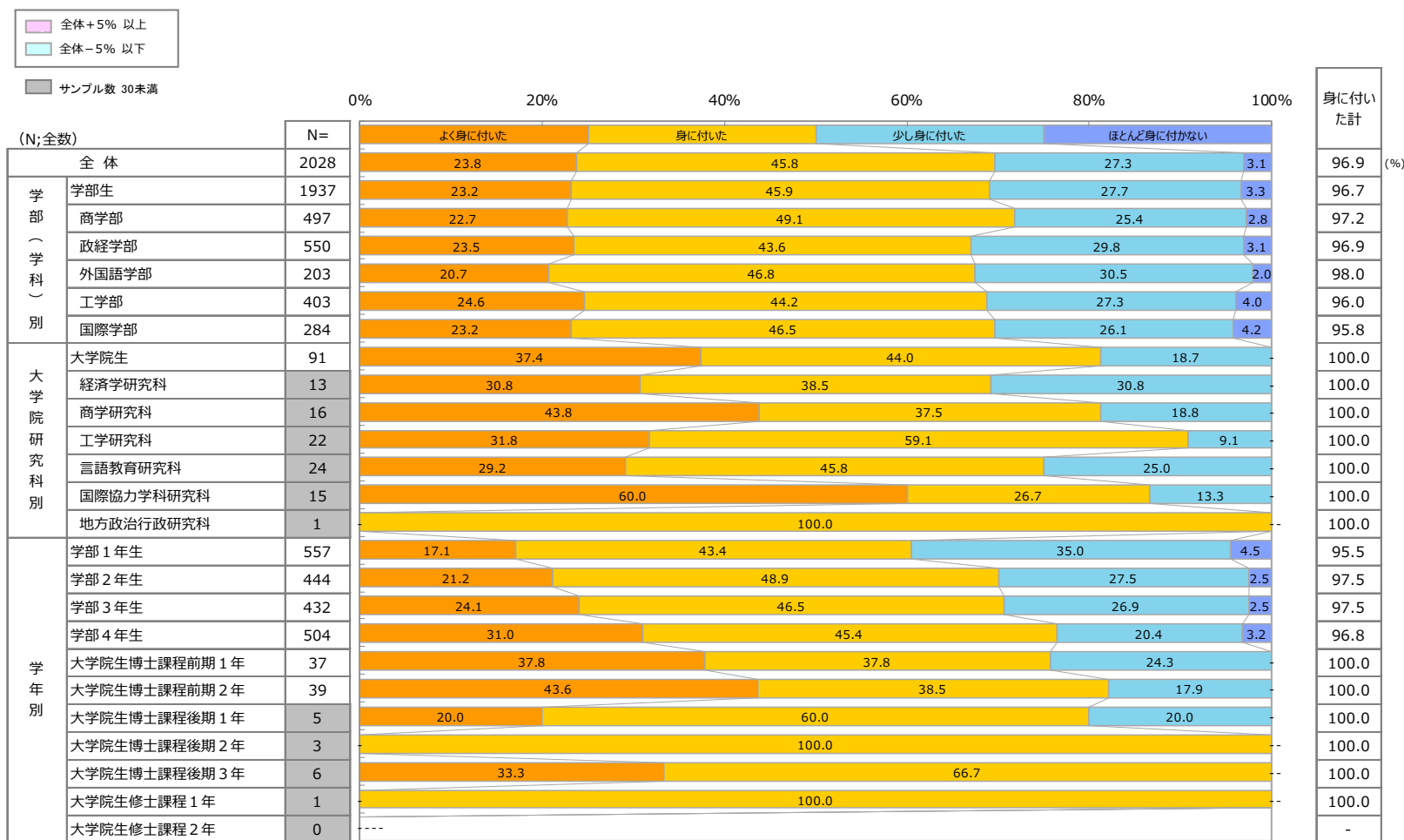
- ・専門分野に関する知識・技能の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の96.3%に達し、「よく身に付いた」は21.9%となった。
- ・学部別では、各学部で「身に付いた計」がおおむね95%以上。
「よく身に付いた」をみると、学部生では外国語学部（30.0%）、工学部（26.3%）が特に高い。大学院生は「身に付いた計」が98.9%に達し、「よく身に付いた」が28.6%となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる傾向。



情報を収集する力やそこから必要な情報を得る力

Q24.情報を収集する力やそこから必要な情報を得る力は身に付きましたか。(SA)

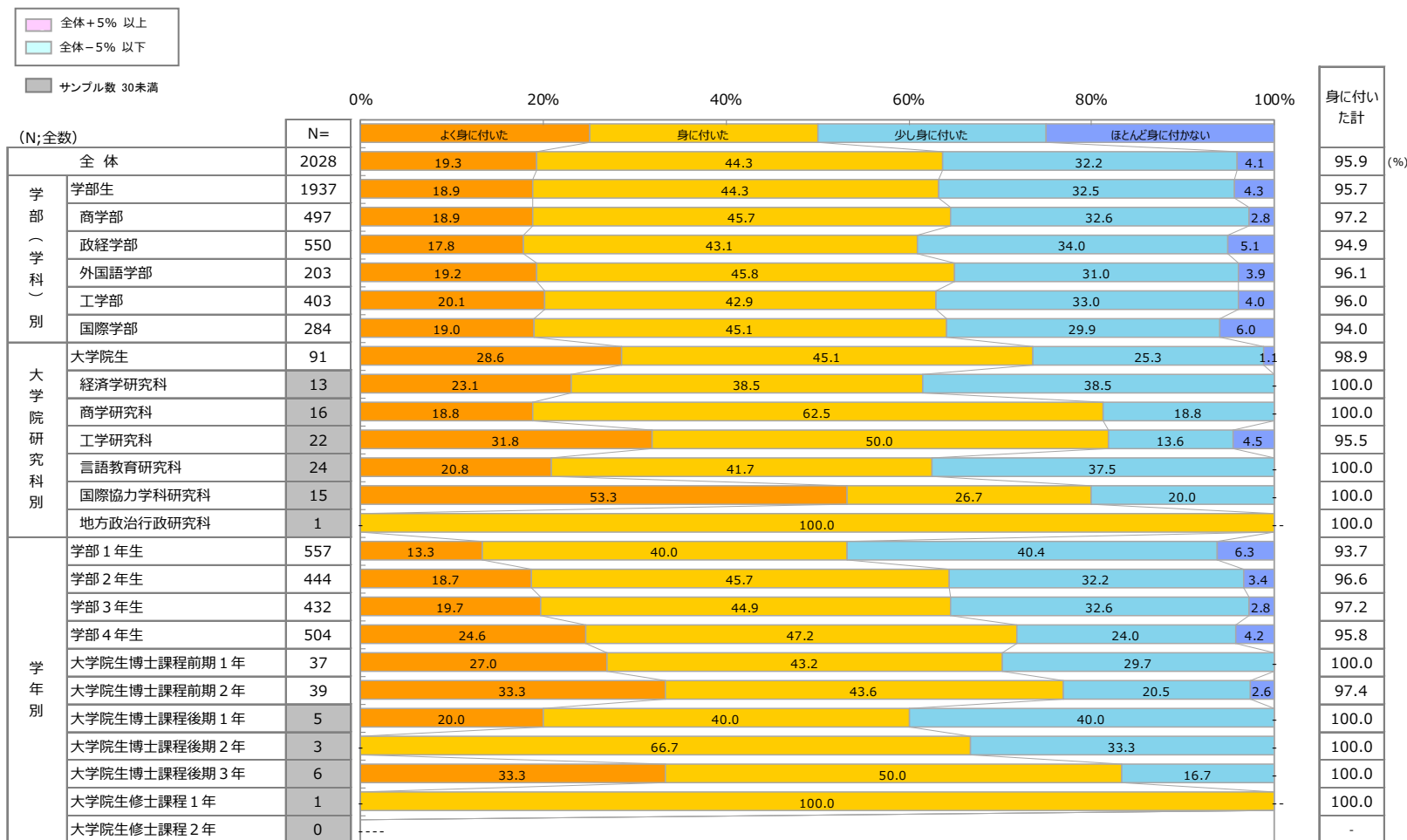
- ・情報を収集する力やそこから必要な情報を得る力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の96.9%に達し、「よく身に付いた」は23.8%となった。
- ・学部別では、各学部で「身に付いた計」が95%以上で、「よく身に付いた」はいずれも20%以上。
- ・大学院生は「身に付いた計」が100.0%に達し、「よく身に付いた」が37.4%となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



物事の課題を発見し、その解決の方向性を考える力

Q25.物事の課題を発見し、その解決の方向性を考える力は身に付きましたか。(SA)

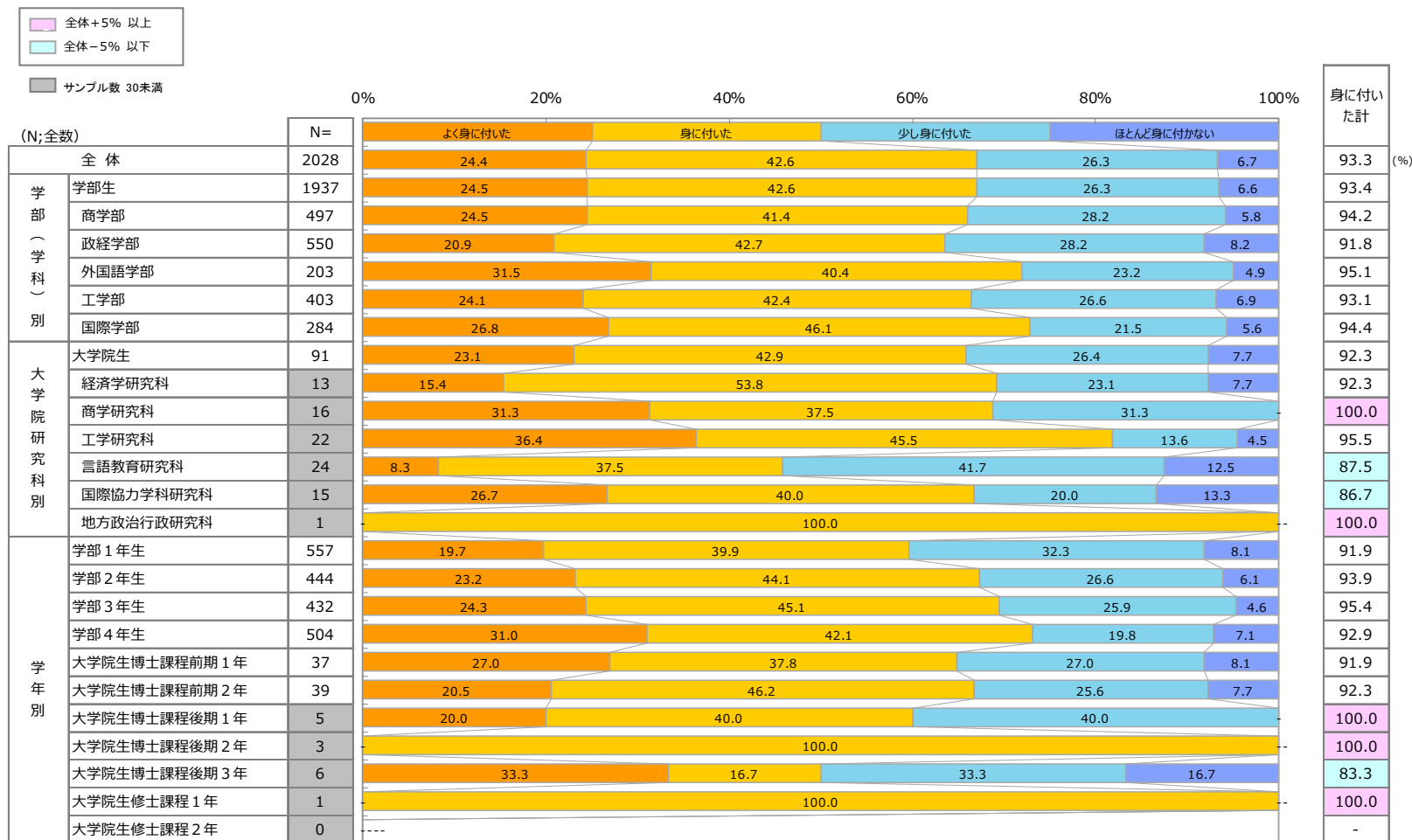
- ・物事の課題を発見し、その解決の方向性を考える力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の95.9%に達し、「よく身に付いた」は19.3%となった。
- ・学部別では、各学部で「身に付いた計」がおおむね95%以上で、「よく身に付いた」はいずれも20%近く。大学院生は「身に付いた計」が98.9%に達し、「よく身に付いた」が28.6%となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



他の人と協力して物事を進めていく力

Q26.他の人と協力して物事を進めていく力は身に付きましたか。(SA)

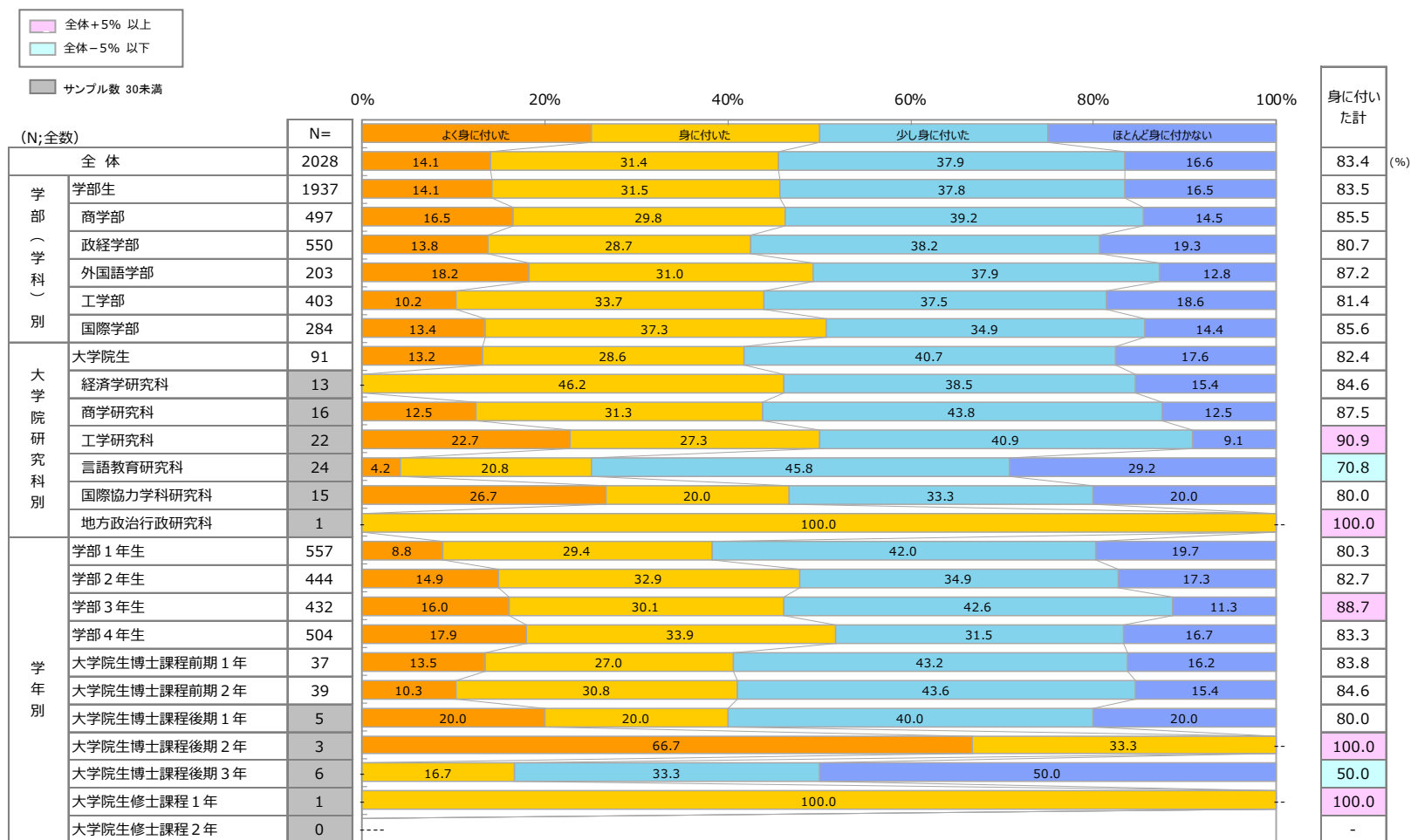
- ・他の人と協力して物事を進めていく力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の93.3%に達し、「よく身に付いた」は24.4%となった。
- ・学部別では、各学部で「身に付いた計」が90%以上。学部生では外国語学部（95.1%）、国際学部 国際学科（94.4%）が特に高い。大学院生は「身に付いた計」が92.3%に達し、「よく身に付いた」が23.1%となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



必要な場合のリーダーシップを発揮できる力

Q27.必要な場合のリーダーシップを発揮できる力は身に付きましたか。(SA)

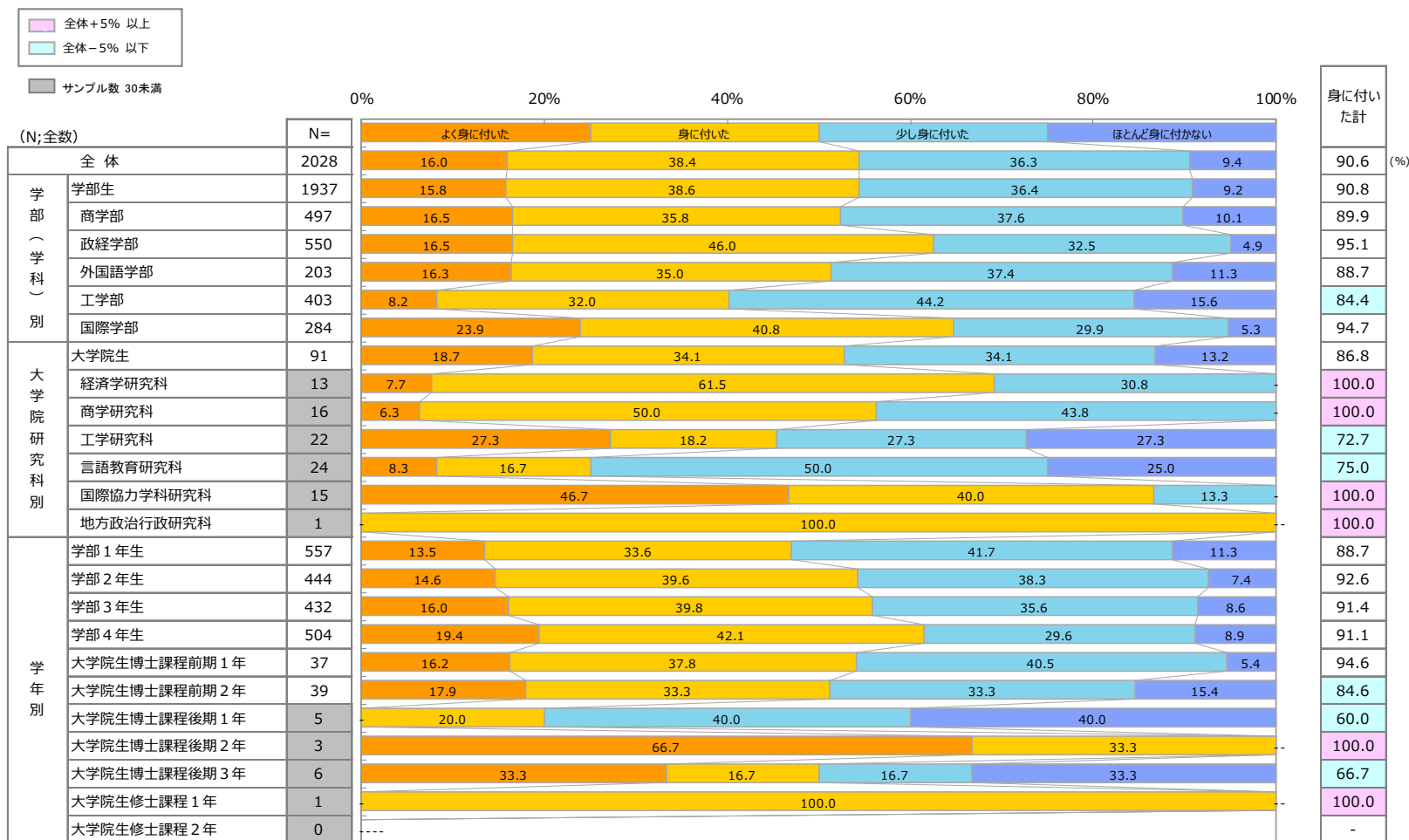
- 必要な場合のリーダーシップを発揮できる力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の83.4%に達し、「よく身に付いた」は14.1%となった。
- 学部別では、各学部で「身に付いた計」は80%台のスコア水準。「よく身に付いた」をみると、学部生では外国語学部（18.2%）、商学部（16.5%）が他学部と比較して高め。なお、工学部では10.2%。各学部の中で最も低い。大学院生は「身に付いた計」が82.4%に達し、「よく身に付いた」は13.2%。
- 学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



社会(国民・地域・国際等)が直面する課題を理解する力

Q28.社会(国民・地域・国際等)が直面する課題を理解する力は身に付きましたか。(SA)

- ・社会(国民・地域・国際等)が直面する課題を理解する力の「身に付いた計(よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた)」は全体の90.6%に達し、「よく身に付いた」は16.0%となった。
- ・学部別では、国際学部 国際学科と政経学部で「身に付いた計」がおおむね90%近く。工学部は84.4%と最も低い。「よく身に付いた」をみると、学部生では国際学部 国際学科が23.9%と最も高い。大学院生は「身に付いた計」が86.8%で、「よく身に付いた」が18.7%となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



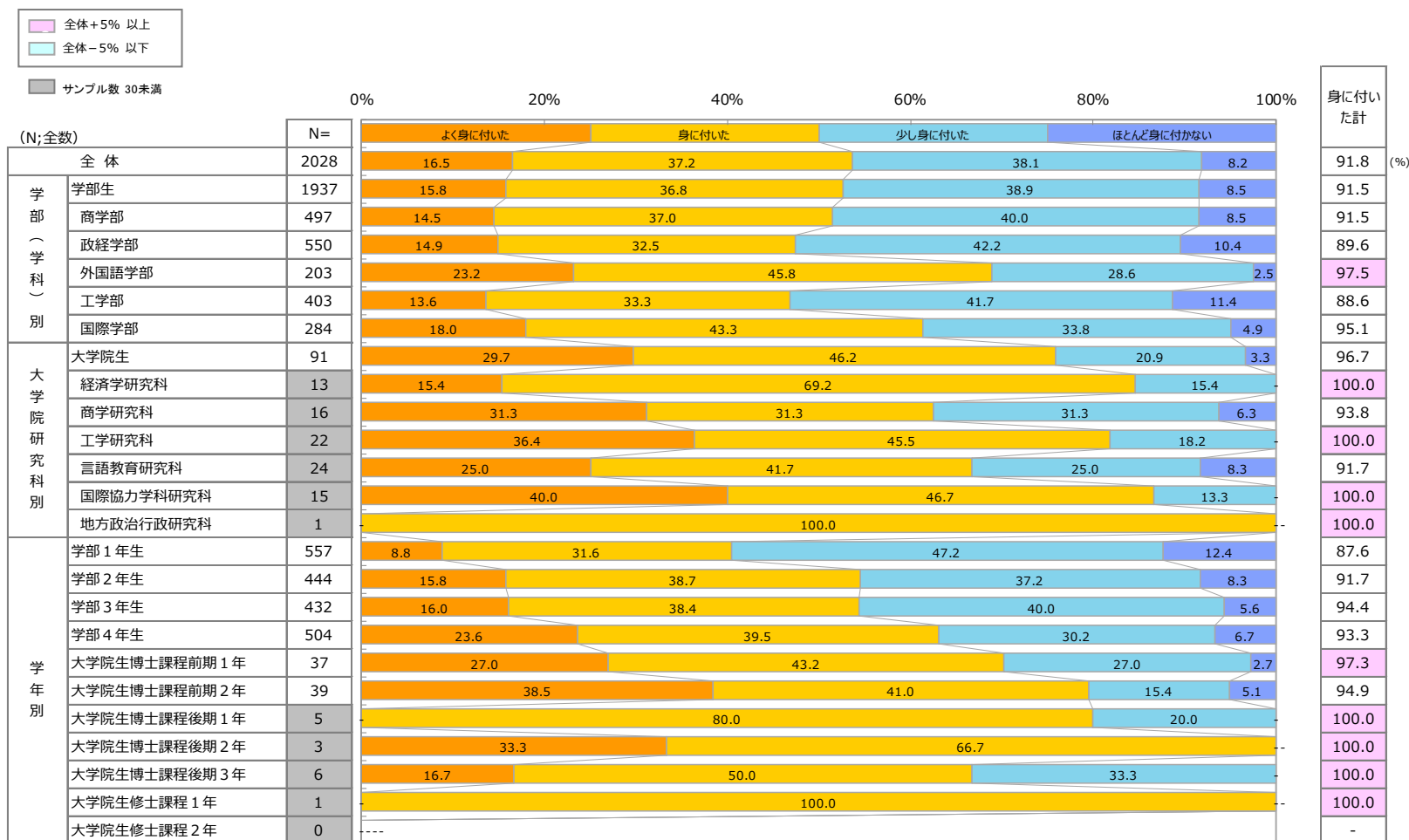
- ・外国語の運用能力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の79.1%となり、「よく身に付いた」は12.1%となった。
- ・学部別では、外国語学部で「身に付いた計」が97.0%に達し、国際学部 国際学科が89.8%で続く。「よく身に付いた」をみると、外国語学部で27.1%と特に高い。
- ・大学院生は「身に付いた計」が84.6%で、「よく身に付いた」が12.1%となった。
- ・学年別では、「よく身に付いた」は学部生の中では4年生が14.9%と最も高い。



学修した内容をまとめて、それを発表する力

Q30.学修した内容をまとめて、それを発表する力は身に付きましたか。(SA)

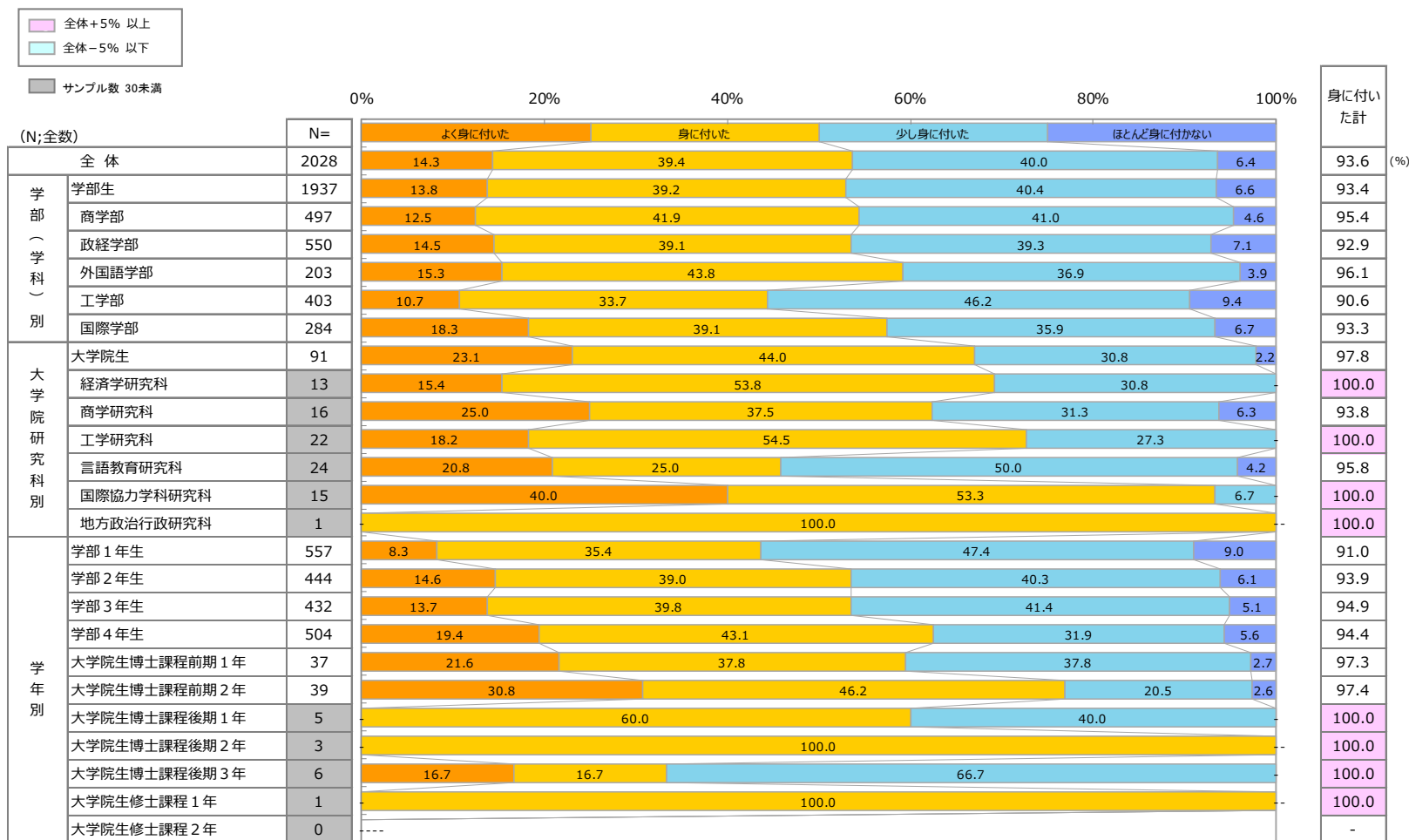
- 学修した内容をまとめて、それを発表する力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の91.8%に達し、「よく身に付いた」は16.5%となった。
- 学部別では、外国語学部（97.5%）、国際学部 国際学科（95.1%）、商学部（91.5%）で「身に付いた計」が90%以上。「よく身に付いた」をみると、学部生では外国語学部が23.2%と最も高い。大学院生は「身に付いた計」が96.7%（全体より+4.9pt）で「よく身に付いた」が29.7%（全体より+13.2pt）となった。
- 学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がる。



表現すべき内容を文章にして書ける力

Q31.表現すべき内容を文章にして書ける力は身に付きま
したか。(SA)

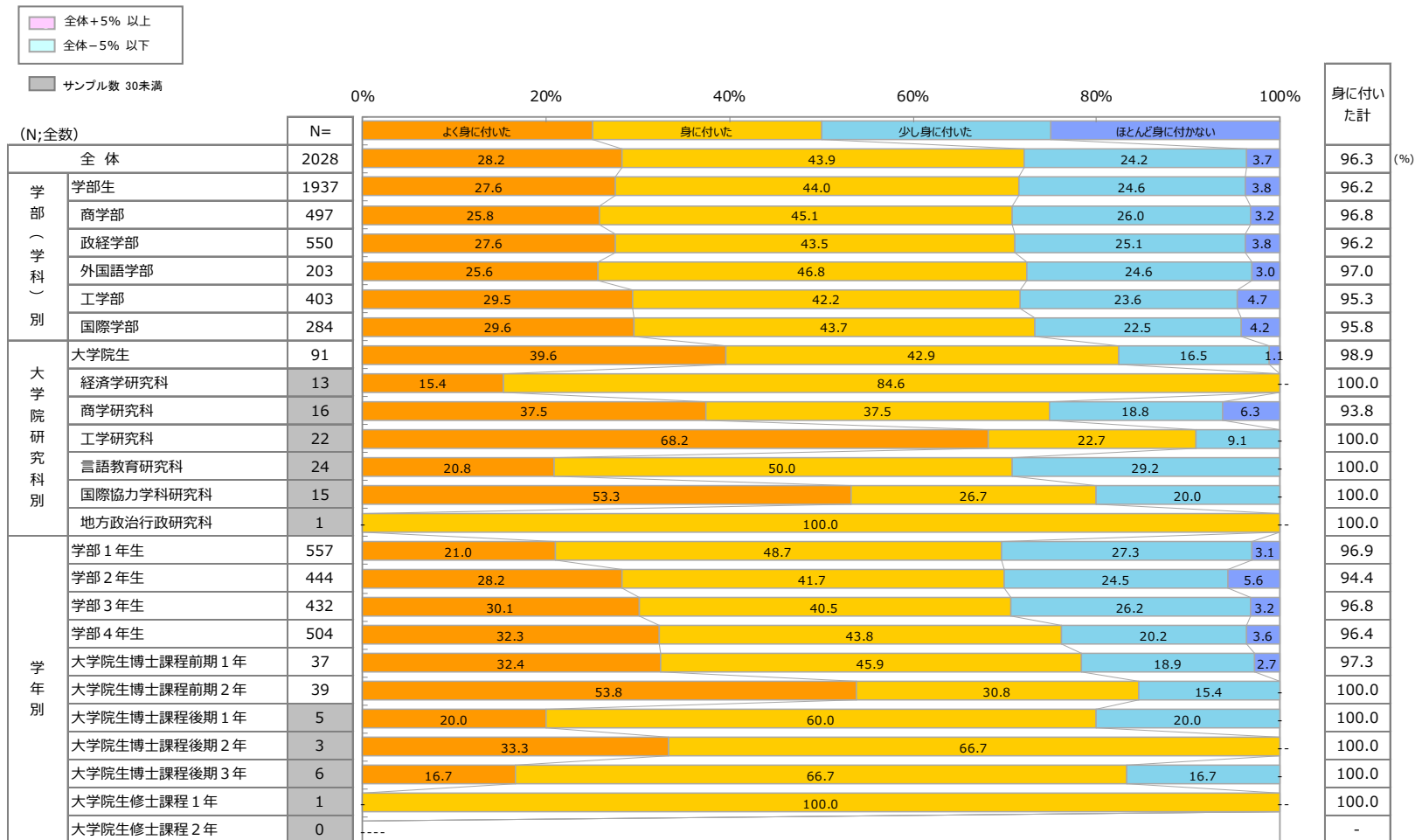
- ・表現すべき内容を文章にして書ける力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の93.6%に達し、「よく身に付いた」は14.3%となった。
- ・学部別では、「身に付いた計」は、すべての学部で90%以上。
「よく身に付いた」をみると、学部生では国際学部 国際学科が18.3%と最も高い。
大学院生は「身に付いた計」が97.8%（全体より+4.6pt）で「よく身に付いた」が23.1%（全体より+8.8pt）となった。
- ・学年別で「よく身に付いた」をみると、学部4年生は19.4%で最も高く、続くのは2年生の14.6%となった。



パソコンで文書や資料を作成する力

Q32.パソコンで文書や資料を作成する力は身に付きましたか。(SA)

- ・パソコンで文書や資料を作成する力の「身に付いた計（よく身に付いた+身に付いた+少し身に付いた）」は全体の96.3%に達し、「よく身に付いた」は28.2%となった。
- ・学部別では、どの学部でも「身に付いた計」が95%以上。
「よく身に付いた」をみると、学部生では国際学部 国際学科が29.6%と最も高い。工学部が29.5%と続く。大学院生は「身に付いた計」が98.9%に達し、「よく身に付いた」が39.6%となった。
- ・学年別では、学部1年生から4年生と上がるにつれ「よく身に付いた」が上がり、3年生と4年生では30%を超える。

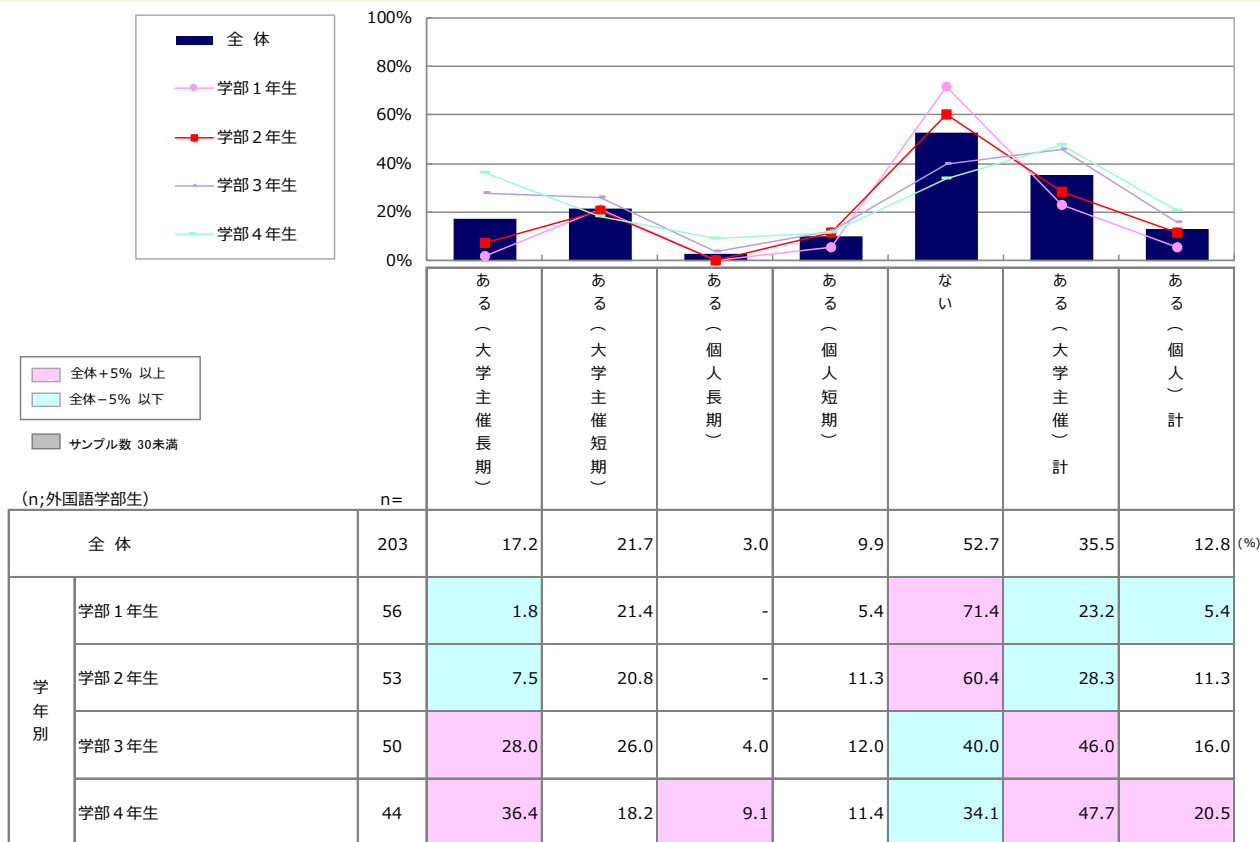


学部設問項目

海外での語学研修経験

Q33.海外で語学研修をしたことがありますか（入学以来本年度3月までの実施予定も含む）。（MA）
（外国語学部生のみ）

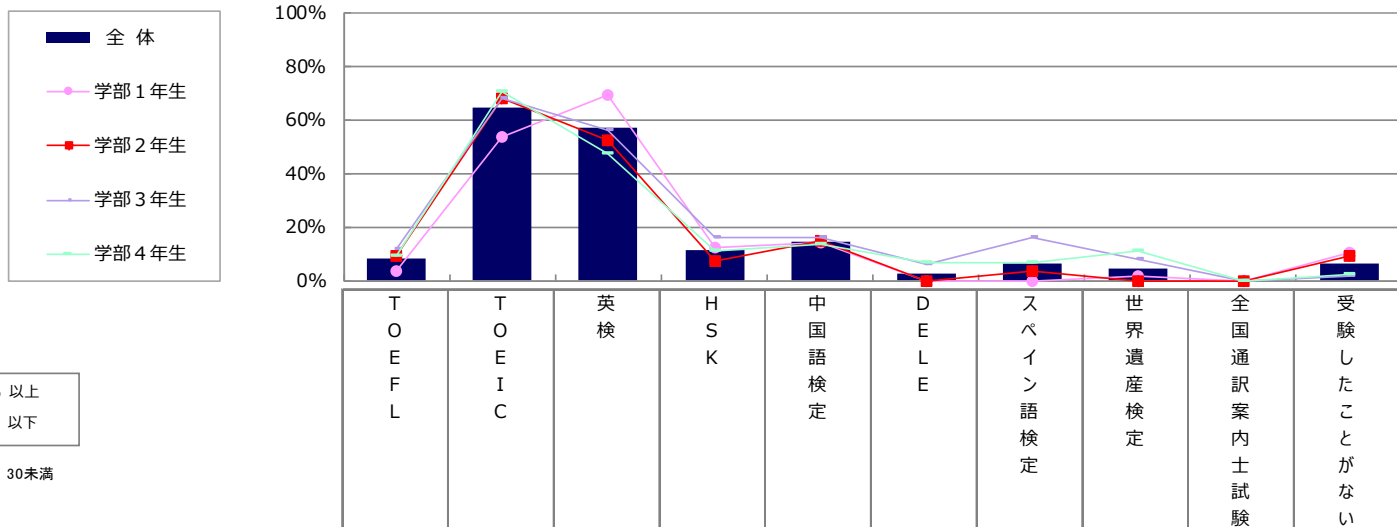
- ・外国語学部生の海外での語学研修経験は「ない」が52.7%と半数以上。「ある（大学主催）」計は35.5%と「ある（個人）」計（12.8%）を上回る。
- ・学年別では、1年生は「ある（大学主催短期）」（21.4%）が最も高く、「ある（個人短期）」（5.4%）が続く。長期の語学研修経験は「大学主催」は1.8%、「個人」は0%。語学研修経験としては、長期より短期の割合が高い。2年生も「ある（大学主催短期）」（20.8%）が最も高く、「ある（個人短期）」（11.3%）が続く。長期の語学研修経験は「大学主催」は7.5%、「個人」は0%。語学研修経験としては、長期より短期の割合が高い。3年生は「ある（大学主催長期）」（28.0%）、「ある（大学主催短期）」（26.0%）が20%以上と、大学主催の語学研修経験の方が個人の語学研修経験よりも多い。4年生も「ある（大学主催長期）」（36.4%）、「ある（大学主催短期）」（18.2%）と、大学主催の語学研修経験の方が個人の語学研修経験よりも多い。なお、長期と短期を比較すると、長期（大学主催：36.4%/個人：9.1%）の方が、短期（大学主催：18.2%/個人：11.4%）を上回っている。



語学検定試験受検有無

Q34.語学に関する検定試験を受検したことがありますか。
 (MA) (外国語学部生のみ)
 ※以下の検定試験を受検したことがない方は、何もチェックせずに、次に進んでください。

- ・受検経験がある語学検定試験は「TOEIC」が64.5%、「英検」57.1%と英語の検定が上位にあがり、「中国語検定」が14.8%で続く。
- ・学年別でみると、「TOEIC」は4年生が70.5%と最も高く、1年生が53.6%と最も低い。「英検」は1年生が69.6%と最も高く、4年生が47.7%と最も低い。
- ・「D E L E」、「世界遺産検定」は学年が上がるにつれ、受検経験率も上がる傾向。

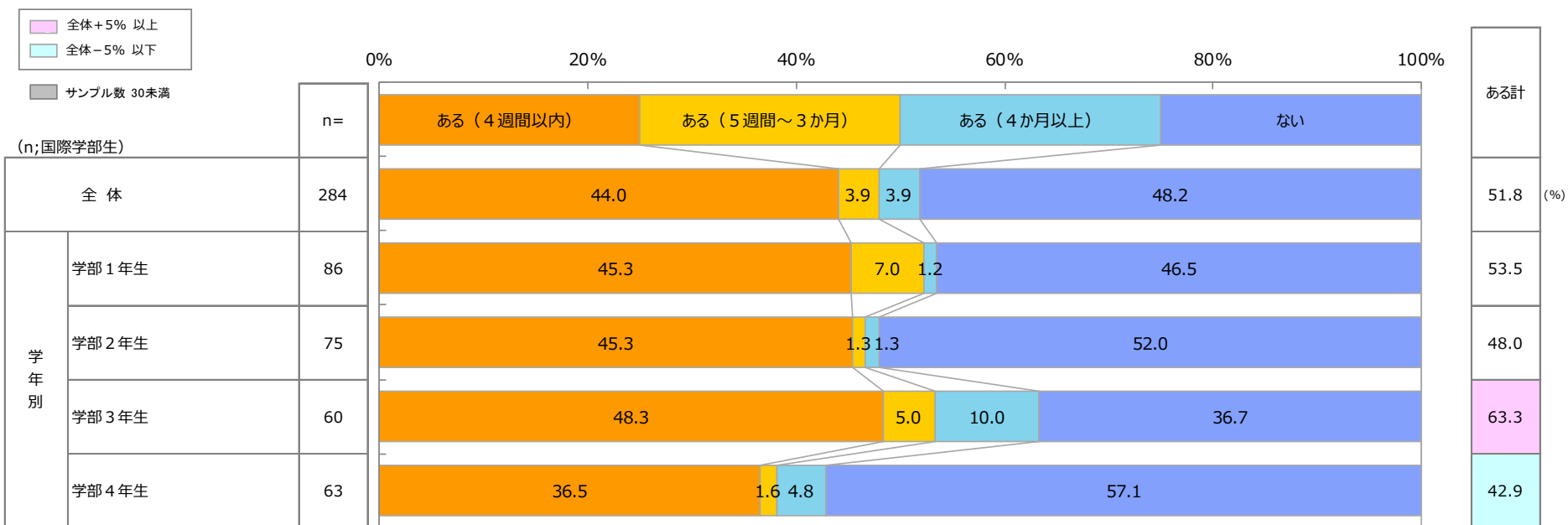


(n;外国語学部生)		n=	TOEFL	TOEIC	英検	HSK	中国語検定	D E L E	スペイン語検定	世界遺産検定	全国通訳案内士試験	受験したことがない
全体	203		8.4	64.5	57.1	11.8	14.8	3.0	6.4	4.9	-	6.4 (%)
学年別	学部1年生	56	3.6	53.6	69.6	12.5	14.3	-	-	1.8	-	10.7
	学部2年生	53	9.4	67.9	52.8	7.5	15.1	-	3.8	-	-	9.4
	学部3年生	50	12.0	68.0	56.0	16.0	16.0	6.0	16.0	8.0	-	2.0
	学部4年生	44	9.1	70.5	47.7	11.4	13.6	6.8	6.8	11.4	-	2.3

海外研修参加有無

Q35.海外研修に参加したことがありますか、あるいは3月までにする予定がありますか。(海外短期研修・語学留学、海外ゼミ合宿、個人研修奨学金、長期留学、海外インターンシップ等)
(SA) (国際学部生のみ)

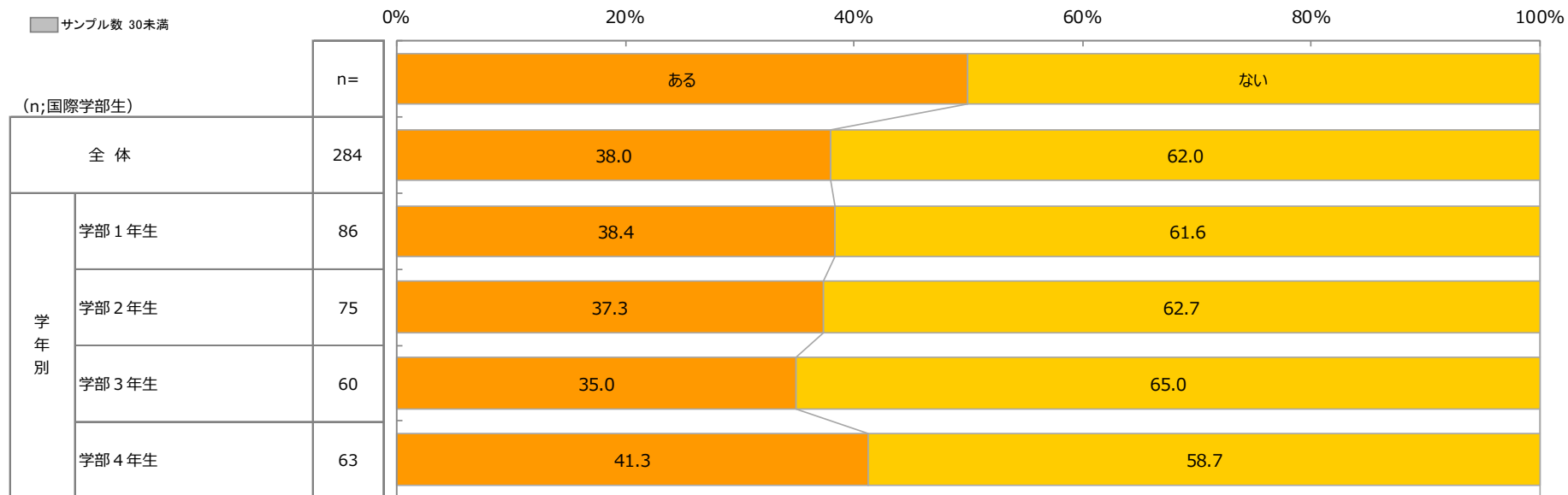
- ・国際学部 国際学科生の海外での研修参加経験は「ある」計が51.8%と、「ない」の48.2%とほぼ半々となった。「ある（4週間以内）」が44.0%と、4週間以内の比較的短い期間での海外研修参加がほとんど。
- ・学年別でみると、1年生と3年生では「ある」計の方が「ない」を上回っており、対して2年生と4年生では「ない」の方が「ある」計を上回っている。
- ・4週間以内の比較的短い期間での海外研修の参加が多い傾向は、どの学年でも共通している。



国内、国外におけるボランティア・NGO活動参加有無

Q36.入学以来、国内、国外におけるボランティア活動やNGO活動に参加したことがありますか。(SA)
(国際学部生のみ)

- ・国際学部 国際学科生の国内、国外におけるボランティア・NGO活動参加経験は「ある」が38.0%。
- ・学年別に参加経験率をみると、4年生が41.3%（全体より+3.3pt）で最も多い。



学修行動調査結果 に対する所見

1. 本年度の授業の中での経験について

学生は、定期的に小テスト・レポートを課され(94.2%:学部94.4%、院90.1%)、教材・課題の受け取りや提出に、Blackboard、E-mail等を活用(86.7%:学部86.7%、院75.8%)する機会が多いと感じている。多くの学生は、教員への質問(66.3%:学部64.9%、院95.6%)や学生同士(68.7%:学部67.97%、85.7%)での議論による授業を経験し、自分の考えや課題を発表(80.4%:学部79.6%、院96.7%)することが多いと感じている。また、学生の半数以上は演習、実験、実習、フィールドワークなどの体験授業(55.2%:学部54.5%、院70.3%)を受けている。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

学生は授業や課題のためにインターネットの活用(92.6%:学部92.4%、院97.8%)は、図書館の活用(61.6%:学部60.6%、院84.6%)を大きく上回っている。また、他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験は多く(79.3%:学部77.7%、院89.0%)が、教職員への学修に関する相談経験(40.5%:学部38.9%、院74.7%)は学部では少ない。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

学部では週あたりに「13科目以上」(41.9%)と多くの授業に出席しているが、そのための授業時間以外の勉強時間は「1～3時間」(43.6%)で多くない。これに比べて、アルバイトの時間は「19時間以上」(42.8%)と多い。

大学院では、授業出席科目数は、「1～2科目」(24.2%)、「7～8科目」(16.5%)、「13科目以上」(16.5%)で、そのための授業時間以外の勉強時間は「1～3時間」(22.0%)、「19時間以上」(26.4%)で、アルバイト・就労時間は「全くない」(16.5%)、「19時間以上」(30.8%)となっており、二極化されていると言える。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1) 学修成果の達成状況

学生の学修成果は、「情報収集能力」(96.9%)、「一般的な教養」(96.6%)、「専門知識・技能」(96.3%)、「コンピュータ活用能力」(96.3%)、「課題発見・解決能力」(95.9%)、「文章表現能力」(93.6%)、「協働性」(93.3%)、「プレゼンテーション能力」(91.8%)、「社会が直面する課題を理解する力」(90.6%)、「リーダーシップ能力」(83.4%)、「外国語運用能力」(79.1%)となっており、概ね到達目標を達成しているといえる。

なお、学部においては、「情報収集能力」(96.7%)、「一般的な教養」(96.6%)、「コンピュータ活用能力」(96.2%)、「専門知識・技能」(96.1%)、が、大学院においては、「情報収集能力」(100%)、「専門知識・技能」(98.9%)、「課題発見・解決能力」(98.9%)、「コンピュータ活用能力」(98.9%)が特に高い状況である。

(2) 長所と課題

以上のとおり、ほとんどの項目で80%を超え、概ね学修成果を達しているといえる。ただし、「外国語運用能力」の修得は、外国語学部及び国際学部を除き、高い評価とは言い難い。

(3) 教育課程や教育内容・方法などの改善方策

外国語学部及び国際学部を除く3学部においては、外国語教育の教育課程及び教育内容・方法の両面から、改善策を検討する必要がある。

1. 本年度の授業の中での経験について

全体として平成30(2018)年度と大きな変化は見られないが、「演習、実験、実習、フィールドワークなど体験授業の有無」(H30:42.7%, R1:42.1%)のみわずかだが低下している。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

「他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験」「教職員への学修に関する相談経験」は平成30年度と比べほぼ同水準なのに対し、「授業や課題のため図書館で資料・文献を調べた経験」は、平成30(2018)年度の65.6%から令和元年(2019)度は59.0%に6.6ポイントも低下している。その一方で、「授業や課題のためインターネットでの情報収集経験」は平成30(2018)年度の87.9%から令和元(2019)年度は90.7%に上昇している。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

週当たりの「授業時間以外での学修時間」について「0時間」は平成30年度の18.3%から12.9%に減少している。「1～3時間」は48.5%(H30:46.7%)と大きな変化はないものの、全学部のなかで最も高い値となっている。これは令和元(2019)年に文部科学省が試行実施した全国学生調査の結果(0時間:9%, 1～5時間:58%)と比べても学修時間の少なさが目立つ。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1)学修成果の達成状況

商学部の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)では、(1)各分野の専門知識・幅広い教養を身につけ、それらを活用して問題を発見し、課題解決する能力、(2)他者と協働して学ぶ姿勢、個人・チームとしての思考力・プレゼンテーション能力、(3)世界の文化を理解し、グローバルに活躍するための基礎的コミュニケーション能力、の育成を掲げている。これらに照らしてみると(1)に関する「専門分野」、「一般的な教養」、「課題発見・解決能力」はいずれも95%を超え、(2)に関する「他者と協力しての遂行力」、「学修内容の整理・発表能力」も90%を超えている。しかし、(3)に関する「社会が直面する課題の理解」、「外国語運用能力」は70～80%台と他に比べ達成率が低い。

(2)長所と課題

「専門知識・技能」「一般的な教養」「情報収集能力」「課題発見・解決能力」等において「身に付いた」との回答が概ね95%を超えており学修成果が十分出ていることが長所といえる。一方で、「社会が直面する課題の理解」(Q28)、「外国語運用能力」(Q29)において「身に付いた」との回答が70～80%台と他の項目に比べて達成率が低いことが課題である。また、授業時間外での学修時間(Q17)において「1～3時間」が最も多く、大学設置基準が示す授業外学修時間を満たしていない者が多くいることも課題である。

(3)教育課程や教育内容・方法などの改善方策

「自分の考えや課題を発表する授業」「学生同士が議論する授業」「演習、実験、実習、フィードバックなど体験授業」における肯定的回答の割合が、学部生平均よりも数ポイント下回っていることから、現在一部のゼミナールや専門科目において導入しているPBL型授業をさらに拡充していくことが望ましいと思われる。

1. 本年度の授業の中での経験について

学生の参加を促す授業づくりが前年度の課題であったが、「教員への質問」(58.3%→61.6%)「議論」(56.5%→60.5%)「体験型授業」(33.9%→41.6%)の各項目で前年度を上回った。令和元(2019)年度より開始した2年ゼミナールの改革が有効であったと思われ、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げた「コミュニケーション・協働性の修得」にかなった成果であると言える。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

昨年度と同様、「他の学生と話す」「図書館での調べもの」に関しては70%に近い学生が経験し、「ネットでの情報収集」も90%を超える学生が行っている。しかし、「教員への相談」は、前年度より改善したものの、36.7%にとどまっている。「問題発見解決能力」(「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー))の涵養には学生自身での取り組みのみならず教員の指導が不可欠であるため、改善の必要があると思われる。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

「授業以外での学修時間」「授業と関連しない読書時間」の両項目で4時間以上取り組む学生の割合が増えたことで、前年度より改善している。「部活・サークル」に参加していない学生が52.7%に上る一方で、45.1%の学生が19時間以上アルバイトに従事している。アルバイトによって学修・課外活動の時間が削られている実態がうかがえる。指導の際には、学生の経済状況に配慮する必要があると思われる。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1)学修成果の達成状況

「外国語運用能力」(78.4%)を除く、すべての質問項目で80%以上が「身についた」と回答している。

(2)長所と課題

「一般的な教養」「専門知識・技能」「情報収集能力」「課題発見・解決能力」「協働性」の項目では90%以上の学生が「身についた」と回答した。一方で、「リーダーシップ能力」と「外国語運用能力」は、全体に比べて「身についた」の割合がやや低く、今後の課題である。

(3)教育課程や教育内容・方法などの改善方策

昨年度に比べて、学生の学修状況はおおむね改善している。大きな課題は、学生の授業参加の促進および学生・教員間のコミュニケーションの緊密化である。授業内での質問時間の設定や、オフィスアワーの活用促進、ゼミナールの受講促進に取り組むことが重要であると思われる。

外国語学部

1. 本年度の授業の中での経験について

「自分の考えや課題を発表する授業」「教員への質問・意見を述べる」「学生同士が議論する」「定期的な小テスト・レポートのある授業」については昨年同様、高い数値を示しており、学部の特性が表れている。一方、「演習・実験・実習・フィールドワーク」、「Blackboard、E-mail」は全体の平均より、やや下回っている。学外での授業に関しては、ICT教育の充実を検討していく。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

「共同学習」「教員への相談」「文献の調査」「インターネット」の項目全てにおいて、全体の平均より上回っている。授業外の課題遂行に必要な学習が多く設定されていることの現れといえる。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

「19時間以上」が10%で、サークル活動は全学よりやや上回るが、読書やアルバイトは全学よりも大幅に少ない。外国語学部は授業内の課題が多く、それ以外の活動への参加の時間が少なくなっている。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1) 学修成果の達成状況

全体よりも上回る項目は、「専門知識・技能」「協調性」「リーダーシップ能力」「プレゼンテーション能力」であり、大きく上回っているのが「外国語運用能力」である。一方、「情報収集能力」「課題発見・解決能力」「社会が直面する課題を理解する力」「文章表現能力」は大学の平均とあまり変わらず、「一般的な教養」は下回る。これらは、アクティブ・ラーニングに欠かせない項目でもあり、語学の授業においても内容を通して、思考力をより高める手法を模索していくことが必要と考える。

(2) 長所と課題について

最も大きな長所は、「外国語運用能力」の、身に付いた計97%で、大学の平均79.1%を大幅に上回る。検討すべき項目は、「一般的な教養」で全体の平均よりも低く、語学以外の専門科目の内容をどのように授業に取り入れるか、検討の余地がある。

(3) 教育課程や教育内容・方法の改善方策

外国語学部の学生は「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げている専門知識やその運用、他者との協働等に関する項目についてはかなり身についたと感じている。特に「外国語運用能力」は全学の平均より大きく上回っているが、授業外の活動全般や、語学以外の教養科目との連携が課題となっている。今後は、語学の知識や運用能力を駆使して内容を学び、その内容について深く考察する授業を展開する必要がある。

1. 本年度の授業の中での経験について

学生同士が議論する授業があった(学部全体67.9%:工学部71.2%)および演習、実験、実習、フィールドワークなど体験授業があった(学部全体54.5%:工学部90.6%)については昨年同様、高い数値を示しており、学部の特性が表れている。また、今年度は教員への質問・意見を述べたことの経験が昨年度より8.3%増加している(学部全体64.9%:工学部70.0%)。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

授業や課題のため図書館で資料・文献を調べた経験(学部全体60.6%:工学部46.9%)について昨年同様、全体と比較して約15%低い。一方、他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験、教職員への学修に関する相談経験は全体と比較して約5%高い。教職員への相談は、昨年と比較して約5.9%増の45.2%で、学部で最も高い値である。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

授業時間以外での授業関連学修・経験時間について、「1～3時間」が35.7%で最も多い。全くしない11.4%と合わせると、47.1%の学生の学修時間は一週間に3時間以下ということになる。昨年53.7%であったことに比べると、改善されているが、19時間以上取り組んでいる学生も17.4%(昨年13.0%)存在し、格差は広がっている。読書時間については、工学部で「19時間以上」が11.9%で他学部比べて高い点特徴的であるが、ゼロの学生も34.0%で他学部比べて多い点は昨年同様の傾向である。部活・サークル活動、アルバイト・就労時間については他学部と比較して活動は少ない。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1)学修成果の達生状況

「一般的な教養」「専門知識・技能」「情報収集力能力」「課題発見・解決能力」については、いずれも95%を超え、昨年度と同等の数値を示している。一方、「リーダーシップ能力」「外国語運用能力」については全学部の中でも低い値を示している点も昨年同様である。

(2)長所と課題

最も大きな長所は、「専門知識・技能」について、「身についた計」が96.3%の中で「よく身についた」という回答が26.3%と高い値を示している点である(学部全体平均21.6%)。課題は、「外国語運用能力」で、学部全体の78.9%に対して62.3%という低い値にとどまっており、いずれも昨年と同様である。

(3)教育課程や教育内容・方法の改善方策

工学部の学生は「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)に掲げている専門知識やその運用、他者との協働等に関する項目についてはかなり身についたと感じている一方、「外国語運用能力」を備えたグローバルなコミュニケーション能力、及びチーム協働の中での「リーダーシップ能力」、広い視野に立った「社会的な課題に対する解決能力」については不足していると感じている学生が多い。しかし、体験的な授業が多く用意されており、教員とのコミュニケーションも確保されているため、学生が達成感を感じられるような改善が必要と考える。プロジェクト型の授業や課題設定の工夫と成果の外部への発信により、学生が達成感を得られ、グローバルなコミュニケーション能力やリーダーシップの獲得につながると考える。

1. 本年度の授業の中での経験について

課題を発表する授業が「あった」が87.3%、学生同士が議論する授業が「あった」が77.5%とほぼ昨年同様の回答率で高かった。この点、コミュニケーション力、実践力を重視する国際学部の「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)にそった授業が行われていると評価できる。教員への質問の有無については66.9%、演習など体験授業は51.1%と昨年より若干減少しているが、課題であったBlackboardやE-mailの活用率については昨年の78.0%から82.4%へと改善が進んでいる。これらを総合的に見ればおおむね双方向的な授業がすすめられていると評価してよいと思われる。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

「授業内容など他の学生と話す」が78.5%、「教員に相談する」が38.4%と両者とも昨年とほぼ同様であった。また「課題についてネットで解決を図る」が95.8%、「図書館を利用する」は65.5%とこれも昨年とほぼ同様であった。現在、図書館利用は難しい状況もあるが、オンラインを活用した教員による学修相談など増えることを期待したい。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

「13科目以上出席している」47.5%、授業時間外学修「1～3時間」44.7%は昨年とほぼ同じ割合でまじめな学生が多くいることがうかがえる。また、授業時間外学修が「全くない」が18.4%から11.6%と減少しており、状態がやや改善された。授業と関連しない読書時間や部活・サークル活動参加時間は昨年同様、国際学部が一番長かったが、国際学部の幅広い関心やボランティア活動が盛んなことが影響していると思われる。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1)学修成果の達成状況

「リーダーシップ能力」と「外国語活用能力」以外、すべての質問項目で93%以上となっており、高い達成状況と評価できる。

(2)長所と課題

その中でも「一般的な教養」は96.5%、「情報収集能力」95.8%、「プレゼンテーション能力」95.1%と高かった。幅広く世界の課題に向き合い、情報を集め、課題解決を考え発表するゼミなどで行われている取り組みの成果であると考えられる。一方で「リーダーシップ能力」が85.6%、「外国語運用能力」が89.8%と90%を切っており、今後改善していくことが課題である。

(3)教育課程や教育内容・方法などの改善方策

学部の取り組みの大きな方向性としては、誤りはないと考える。今後さらに学生を主体として課題解決に取り組ませる授業やゼミ活動を充実させるなど改善を図りたい。

5. 学部・研究科設問項目について

海外研修参加については昨年同様「ある」と「ない」がほぼ半々であった。国内・国外におけるボランティア・NGO活動参加については昨年の32.3%から38.0%へと増加した。今後、さらに学生のボランティア参加を促す活動を進めていきたい。

1. 本年度の授業の中での経験について

令和元(2019)年度調査には13名が回答。外国人留学生が多い。「自分の考えや課題を発表」「教員に質問や意見」「Blackboardの活用」については100%、「定期試験・レポート」については92.3%がありとした。これらに比べると「体験授業」76.9%、「学生同士の議論」69.2%がやや少なかった。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

上位から「教職員への相談」100%、「インターネットでの情報収集」92.3%、「他の学生と一緒に勉強」84.6%、「図書館での文献研究」76.9%となっている。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

履修科目数は7科目以上が61.6%を占める。授業時間外での週当たり勉強時間は10時間未満が46.2%と約半数を占めやや少ない。アルバイト時間は、「全くない」が30.8%で、一方「15時間以上」が46.2%で二極化している。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1) 学修成果の達成状況

「専門知識・技能」「情報収集能力」「課題発見・解決能力」「社会課題の理解力」「外国語運用能力」「プレゼンテーション能力」「文章表現能力」「コンピュータ活用能力」が100%であり、「協働性」92.3%、「リーダーシップ能力」84.6%がやや低かった。

(2) 長所と課題

本研究科では講義科目において専門知識を教授し、演習科目において論文作成指導を行っている。少人数教育であることも加わり、顕著に学修成果を挙げている。一方、座学中心の学修でないことから個人研究が多く、他学生との交流機会が少なく、また講義外の勉強時間も少ない。

(3) 教育課程や教育内容・方法などの改善方策

予習復習を増やすこと、図書館等の情報ソースをより活用し、文献調査や研究考察を行うこと、及び学生間で授業内容について相談するように促していく。

1. 本年度の授業の中での経験について

「自分の考えや課題を発表する授業」「教員への質問・意見を述べたことでの経験」「定期的な小テスト・レポートのある授業」は肯定的な回答のみであった。「学生同士が議論する授業」「演習、実験、実習、フィールドワークなど体験授業」「Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業」は、否定的な回答はあったものの、他研究科と比べてその割合が最も低い、または低い方であった。前年度は「自分の考えや課題を発表する授業」「教員への質問・意見を述べたことでの経験」「学生同士が議論する授業」「定期的な小テスト・レポートのある授業」「Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業」の5項目において肯定的な回答の割合が大学院生平均を下回っていたことと比べると、大幅に改善している。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

「他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験」「教職員への学修に関する相談経験」「授業や課題のためインターネットでの情報収集」は肯定的な回答のみであった。また、「授業や課題のため図書館で資料・文献を調べた経験」は否定的な回答はあったものの、他研究科と比べてその割合が最も低かった。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

「週当たりの授業時間以外での授業関連学修・経験時間有無」では、前年度は「全くない」と回答する学生が複数名いたが、本年度は皆無であったことと、他研究科と比べても学修時間は長く、学修に対する意欲が行動にもつながっていることがうかがえる。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1) 学修成果の達成状況

前年度は「専門知識・技能」「情報収集能力」「プレゼンテーション能力」「文章表現能力」「パソコン活用能力」に対して「見についた」と回答した学生の割合が100%であったが、本年度は新たに「課題発見・解決能力」「協働性」「社会が直面する課題を理解する力」が100%となった。一方で「プレゼンテーション能力」「文章表現能力」「パソコン活用能力」に対して「見についた」と回答した学生の割合が100%を切っただけでなく、大学院生の平均を下回る結果となった。特に「外国語運用能力」については、前年度同様に「見についた」と回答する学生の割合が大学院生平均を大幅に下回った。

(2) 長所と課題

本年度は全体的に課題発見や課題解決に関する力の成果は高かったものの、その成果をアウトプットとして発信することに関連した力の成果が低かった。

(3) 教育課程や教育内容・方法などの改善方策

上記の課題を踏まえ、輪読の授業などで単に担当分を報告する形式だけでなく、修士論文の中間発表会の回数を増やしたり、修士の1年次から研究内容の報告をする機会を新設したりと、プレゼンテーションする機会を増やしていくことが考えられる。

1. 本年度の授業の中での経験について

「自分の考えや課題を発表する授業有無」「教員への質問・意見を述べたことの経験有無」「学生同士が議論する授業有無」「定期的な小テスト・レポートのある授業有無」の経験の多さに比べると、「演習、実験、実習、フィールドワークなど体験授業有無」「Blackboard、E-mail等を活用し教材・課題の受け取りや提出を行った授業有無」が低かった。

2. 本年度の授業時間外の学習修態度について

「他の学生と授業内容について話し合ったり一緒に勉強した経験有無」「授業や課題のため図書館で資料・文献を調べた経験の有無」「授業や課題のためインターネットでの情報収集経験有無」の多さに比べて、「教職員への学修に関する相談経験有無」が低かった。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

「週当たりの授業出席科目数」は比較的多い。「授業時間以外での授業関連学習・経験時間」は、10時間未満が7割を占める。「週当たりの授業と関連しない読書時間」は1～3時間が半数を占める。「週当たりのアルバイト・就労時間」には、ばらつきがある。「週当たりの個人的な趣味活動時間」は、「全くない」が2割、1～3時間が4割を占める。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1) 学修成果の達成状況

「専門知識・技能」「情報収集能力」「課題発見・解決能力」「協働性」「プレゼンテーション能力」「文章表現能力」「パソコン活用能力」の高さに比べると、「社会が直面する課題を理解する力」「外国語運用能力」がやや低い。「外国語運用能力」については、言語教育研究科の学生としては、基準がわからず、回答しにくかったのではないかと思う。

(2) 長所と課題

この結果からは、授業によく出席し、また、それとは別に、それぞれの専門研究に多くの時間を割いているようすがうかがえる。教室で教員や学生同士で学ぶ機会が多く、そのために、体験授業やBlackboardの活用、教職員への相談が比較的少ないのではないかと思われる。

(3) 教育課程や授業方法・内容などの改善方策

本研究科の特徴的な結果としては、「協働性」「プレゼンテーション能力」「国際交流活動」「社会貢献活動」の項目の評価が比較的低い。これは専攻の専門性から考えれば止むを得ないと考えられなくもないが今後の課題として真摯に受け止めなければならない。今後の対策としては、両専攻とも教育に関連が深いので、英語教員や日本語教員として学校ボランティアに参加することなどが考えられる。今後、教室外での活動を多くしていく方策を検討すべきであろう。

1. 本年度の授業の中での経験について

自分の考えや課題を発表する授業の有無(90.9%)や教員への質問・意見を述べたことの経験の有無について(86.4%)は昨年と同様学内平均に近い高い数値を示している。学生同士が議論する授業については(81.8%)と昨年より8.5ポイントも上昇している。一方、小テスト、レポート(86.4%)やBlackboard、E-mailを用いた講義(68.2%)については、以前学内平均よりも下回っている。これは、人数が少ないことから授業形態が対面的な授業であることが主な要因であると考えられる。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

他の学生と授業内容について話し合ったり、一緒に勉強した経験の有無は(90.9%)と高く、教職員への学修に関する相談経験の有無は(77.3%)であり、昨年度(53.3%)から大きく向上した。基本的には相談、打ち合わせは綿密に行っているがその結果が数字に含まれていないものと思われる。また、図書館での文献調査は依然高くないこと(59.1%)やインターネットでの情報収集は高い(95.5%)が、各分野の専門文献にあたる必要があることからであると思われる。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

授業出席科目数は1-2科目が最も多く31.8%であり、学内平均とほぼ同等である。授業以外の学習経験時間は19時間以上が22.7%と最も多く、これも学内平均とほぼ同様である。授業と関連しない読書時間は1-3時間が27.3%でもっとも多いのが、これも学内平均とほぼ同様である。アルバイトは、19時間以上と4-6時間が27.3%と最も多いが、昨年度と同様に奨学金の取得状況や学生間の経済的な格差がそれなりに大きいことを示している。個人的な趣味活動時間は学部に近い形態である。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1) 学修成果の達成状況

「協働性」は95.5%であり、昨年度よりも4.5ポイント向上しているが、これは、回答した学生の性質によるものと思われる。また、「リーダーシップ能力」(90.9%)についても同様である。「外国語運用能力」は、84.6%に対して81.8%と向上していて、各教員の努力がかいまみえる。

「社会が直面する課題を理解する力」は72.7%と低いがこれは工学研究科が専門性を追求するためである。

(2) 長所と課題

「専門知識・技能」「情報収集能力」「プレゼンテーション能力」「文章表現能力」「パソコン活用能力」は100%であり、身につけていると思われる。「外国語運用能力」も向上している。「課題発見・解決能力」は4.5ポイント低下している。

(3) 教育課程や教育内容・方法などの改善方策

概ね「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)で決めたことは達成しているが、FD活動などを通して、教員が設定するだけではなく課題発見などの学生の自主性を促す学生指導の方法をより検討していく必要がある。

国際協力学研究科

1. 本年度の授業の中での経験について

講義や演習において、学生が自分の考えや意見を述べ、教員と学生で自由闊達に議論ができる環境にあることが、前回に続き今回の結果にも表れている。問題解決に必要な新しい知識や考えを吸収し、それを課題レポートなどで到達度チェックを行い、次の学習ステップへと進むようなサイクルが円滑に機能するように今後も工夫していく。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

前回、懸念事項として指摘した、授業時間外での教員と学生の授業や研究内容について相談経験が全くない学生は解消された。しかし、相談経験の少ない学生もいるので、こうした学生を減らしていきたい。文献・資料収集や情報収集においてはインターネットへの比重が高いため、図書館利用の研究上のメリットを学生に伝えていく。

3. 本年度の週当たりの学修等時間について

前回の結果では、週当たりの授業出席科目数が13以上の学生が50%超であったが、今回はバランスの取れた履修が実現されている。授業関連の学修時間は引き続き長いですが、出席科目数が減少している。また、アルバイト時間も前回よりも減少しており、学生は一週間を有効活用している。引き続き学生が積極的に活動できる環境の確保に努めたい。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1) 学修成果の達成状況

「問題発見・解決能力」「専門知識・技能」そして「協調性」という3つのポリシーからアンケート結果を見るならば、前回のアンケート結果とほぼ同様な結果が得られている。学生から各種の能力が身についたという結果になっている。

(2) 長所と課題

国際社会における喫緊の課題を研究テーマとする学生が多いため、「情報収集能力」「課題発見・解決能力」や「外国語運用能力」が研究を通して向上している。今後の課題は、アンケート結果に出ているように、学修での「協働性」や「リーダーシップ能力」の育成にある。

(3) 教育課程や教育内容・方法などの改善方策

上述の通り、「協働性」や「リーダーシップ能力」が他の項目に比べて相対的に低い。このことから授業や演習などで、協働作業の機会を増やし、グループ作業を通じてリーダーシップを発揮する授業運営を行っていく必要がある。

地方政治行政研究科

1. 本年度の授業の中での経験について

調査時点の本研究科在籍総数7名の内、1名のみ(修士課程1年生。外国人留学生ではない)が回答した。
・「自分の考えや課題を発表」「教員への質問・意見」「定期的な小テスト・レポート」の経験は「よくあった」と回答している。「学生同士の議論」「体験授業」「Blackboard・E-mail等を活用した授業」に対しては「ときどきあった」と回答している。上記6項目の内3項目が「よくあった」と回答している結果から、回答学生は、概ね、授業を通じて様々な経験ができていけると言える。

2. 本年度の授業時間外の学習態度について

「授業や課題のためのインターネットでの情報収集」の経験が「よくあった」と回答している。一方、「他の学生との授業内容に関する話し合い」「教職員への相談」「授業のため図書館での資料等調査」の経験は「ときどきあった」と回答している。上記4項目の内3項目が「ときどきあった」と回答している結果から、回答学生については、「授業外における学生・教職員とのコミュニケーションの頻度」及び「図書館の活用度」は、不十分とは言えないが向上の余地を示しているように見える。

3. 本年度の適当な学修等時間について

「授業出席科目数」は「13科目以上」、「授業時間以外での学修・経験時間」及び「アルバイト・就労時間」は「19時間以上」と回答している。回答学生については、授業準備を中心とした活動量、及び就労時間の多さを読み取ることができる。

4. 入学時と比べて現在までに身に付いた力(学修成果)について

(1) 学修成果の達成状況

「専門知識・技能」等、10項目の内9項目が「身に付いた」と回答していることから、概ね成果を得ることができたと言える。一方、「よく身に付いた」という回答が無かったことは、能力向上の余地があるように見える。また、「外国語運用能力」について「ほとんど身に付かない」と回答している。

(2) 長所と課題

- ・長所: 授業を中心とした多様な経験を通じ、概ね、能力の向上を実感していることが分かる。
- ・課題: 「授業外における学生・教職員とのコミュニケーションの頻度」「図書館の活用度」「外国語の運用能力」については、向上の余地があるように見える。

(3) 教育課程や教育内容・方法などの改善方策

上述の課題については、回答者1名が修士課程1年生であり、授業の単位修得が学修の優先的目標であることが要因と考えられる。本格的に修士論文を執筆する修士課程2年生になると、「学生・教職員とのコミュニケーションの頻度」及び「図書館の活用度」が向上し、能力向上の実感もより高まることが期待できる。一方、「外国語の運用能力」については、本研究科の「教育課程編成の方針」(アドミッション・ポリシー)及び「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と照らし合わせると、それらの対象とはなっていない。他方、「教育課程編成の方針」(アドミッション・ポリシー)には、特に外国人留学生に対し、本研究科への入学前に、十分な日本語運用能力が前提であることが記されている。今回の調査の回答者は外国人留学生ではなく日本語を母語とする学生であると考えられることから、本調査項目の対象として適切であったのかの検討が求められる。よって、今回の調査結果からは、回答学生については、概ね、本研究科の教育課程や教育内容・方法を通じて多様な経験を重ね、多様な能力を獲得していると考えられる。